この伝統を、超える未来を。
130 KANSAI UNIVERSITY

2015年度

活動報告書

第10号

関西大学ボランティアセンター

2015年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて

ボランティアセンター長　黒　田　　勇

関西大学ボランティアセンターは2005年4月に開設し昨年10周年を迎えました。

これまで、当ボランティアセンターに関係していただいた多くの教職員・学生・学生スタッフ・学生スタッフOB・OGの皆さん・学内のボランティア団体、そしてボランティアの受け入れ団体各位、行政・社会連携先の方々に対しまして、心より御礼申し上げます。

開設当初数名であった学生スタッフは、今では80名を超えるまでになりました。センター職員と共に運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行うことを理念に、様々な分野の体験ツアーを企画運営し、関大生がボランティア活動を行う機会を数多く創出したことで、一般学生の参加も年々増加し、その魅力に気づいてくれるようになりました。

当センターでは、学生がボランティア活動を通して、さまざまなスキルだけでなく人間力を身につけ、「考動力」あふれ社会貢献できる人材へと育つよう取り組んできました。

2015年度には、10周年の節目に際し、日常の業務・活動以外に、これまでのボランティアセンターの取り組みを振り返るとともに、社会における大学ボランティアセンターの役割や、学生がボランティア活動に参加することの意義を再確認する二つの行事を開催しました。

まず、10周年記念プログラムとして、「ボランティアセンターの、これまでと、これから」をコンセプトに、「講演会とパネルディスカッション」を開催しました。

第1部の講演会では、大阪ボランティア協会常務理事、早瀬昇氏による「ボランティア活動が拓く世界～社会とつながる魅力と可能性」をテーマに講演いただきました。第2部では、講演者の早瀬氏と、本学社会学部の加納恵子教授、ボランティアセンター学生スタッフ卒業生と現役生によるパネルディスカッションを行い、ボランティア活動の実践経験に基づいての熱い意見交換があり、今後の方向性について、会場のみなさんと共に考える場となりました。

さらに、「10周年記念写真展」も開催し、当センターの10年間の歩みを、わかりやすく、親しみのある展示で振り返り、ボランティア経験のない学生たちへの理解を広げました。と同時に、当センター学生スタッフには学生スタッフOB･OGとの活動のつながりを再確認する機会となり、さらに絆を深める機会ともなりました。

当センターでは、一人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一歩を踏み出すきっかけを見つけ、ボランティア活動のリピータになってほしいと願い支援しています。これからも、ボランティアセンターの活動に対し、益々のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2016年9月

2015年度活動報告書　目次　（2015. 4 ～2016. 3 ）

2015年度ボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて …… ボランティアセンター長　黒田　勇

寄稿 …… 1

2015年度ボランティアセンター事業報告 …… 3

ボランティアセンター設立10周年記念事業 …… 5

環境保全活動及び連携事業 …… 28

学生スタッフ育成プログラム …… 35

各種講座・講演会・フィールドワーク …… 39

ボランティアセンター学生スタッフ活動記録 …… 46

学生スタッフ代表からの一言 …… 67

ボランティア団体への支援 …… 69

広報活動 …… 81

学生の声 …… 86

資料 …… 89

ボランティアセンター紹介記事 …… 93

編集後記 …… 巻末

寄　稿

ボランティアセンター開設 10 周年に寄せて

文学部教授　赤　尾　勝　己
（2012 年 10 月～ 2016 年 9 月　学生センター副所長）

2015 年度に関西大学ボランティアセンターは、発足からちょうど 10 年を経過した。私の主観的な印象かもしれないが、本学のボランティアセンターに集う学生たちは、普段のボランティア活動において、学外の成人たちと関わる機会が多いためか、コミュニケーション能力が発達しており、卒業後どこに出ても大丈夫だという観を強くする。こうした学生たちの存在は、まったく頼もしいかぎりである。今日の後期近代社会において「個人化」傾向が強まり、両耳にイヤホンを入れてスマートフォンを操作しながら歩いている若い人たちが増えているが、本学のボランティアセンターに集う学生たちは、そうした情報機器とほどよい距離をとっている。そこが賢いのである。学生たちは、正課の講義や演習において培われる学力とは異なる能力を、ボランティア活動を通して発達させているのである。こうした経験は、学生たちの将来の人生において何らかのかたちで生きていくにちがいない。

同年 11 月 21 日には、開設 10 周年記念イベントとして、本学第一学舎の千里ホールで、社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事の早瀬昇先生の講演のあと、早瀬昇先生、社会学部教授の加納恵子先生、ボランティアセンター学生スタッフ OB、社会学部の現役学生スタッフ 4 名によるシンポジウムが開かれた。ここで印象的であったのは、格差社会の中で子どもたちの育ちが危うくなっている状況下で、子ども支援ボランティアの必要性が浮き上がってきたことである。そして、活動の中で人間は「助ける～助けられる」関係を通して、実は「助ける側も助けられている」ことに気づき、「自分らしさ」を発見して「市民」へと変わっていく過程が明らかにされたことである。近年、経済協力開発機構（OECD）の調査で、学歴が上昇するにつれて、ボランティア活動を含む「市民的･社会的関与」（CSE）の度合いが、逆に低下するというデータがある。関西大学ボランティアセンターで活動している学生たちが、卒業後もなんらかのかたちでボランティア活動に関わっていただければと思う。同時に、本ボランティアセンターが次の 10 年に向けてますます充実していくことを期待したいと思う。

ボランティアセンター開設10周年を迎えて

関西大学 法人本部長　五　藤　勝　三
（2005～2006年度 学生センター次長兼ボランティアセンター事務長）

ボランティアセンター開設10周年、まことにおめでとうございます。

早いものでボランティアセンター事務室（当時）が開設されて10年が経過しました。当時の状況として、ボランティア活動への社会的関心の高まり、また、他大学における学生ボランティア活動の活発化などそれぞれの大学においてボランティアセンター設置の動きがありました。正課教育の一環としてボランティア活動を奨励している大学も多く、また、「以前は宗教色バックグラウンドを持つ大学で開設されることも多かった中で、関西大学の取り組みは、他の一般大学のモデルとなる取り組みとして当初から注目」（社会福祉法人 大阪ボランティア協会 早瀬昇氏・関西大学ボランティアセンター「2005～2006年度活動報告書」創刊号）していただいていたことをあとから知りました。

開設当初の職場構成メンバーは、私と課員1人でした。私は学生センター次長を兼ねて同センター事務長を拝命し、主になって活動してもらう課員（現学生相談・支援センター事務グループ長の神藤典子氏）も兼務で、専属の職員は2人とも兼務でした。実際の業務運営においては、必要に応じて随時、学生センター内の学生生活課（当時）奨学金担当者に手伝ってもらうことになっていました。

ゼロからのスタートであったので、まず、事業内容や運営スタッフ、ボランティア運営協議会等の内容を定めたボランティアセンター規程（内規）作りが最初の仕事でした。続いて運営協議会の立ち上げ、業務内容の確定とスケジュールの作成、手話講習会の開催（既存の講習会の活用を含めて）、大阪ボランティア協会の指導による講習会「はじめてのボランティア」、ボランティアリーダー講習会の開催などなどあっという間の1年間でした。業務の合間を縫って他大学等の状況調査等は主担者が行ってくれました。

開設年度の12月も半ば頃から、日本海側を中心に各地で記録的な豪雪が続き、新潟県や長野県等で豪雪による災害ボランティア本部が設置されたとの情報が入りました。取り急ぎ、学生ボランティアを派遣すべく、「雪かきボランティア・スノーバスターズ募集」と銘打って学生ボランティアを募集しました。先方の情報収集、連絡先の確保、派遣学生の保険対応等々をまさに走りながら考えておりました。しかし、時折しも、後期試験を控えた時期であり、学生の応募者が少なく、大学としての派遣はやむなく中止しました。しかし、応募してくれていた経済学部3年の2人の学生が、それこそボランティア（自費）で参加してくれたのが印象深く記憶に残っています。

もうあれから10年が経過しました。学生スタッフの体制も充実し、活動内容も多彩になってきました。学生スタッフの育成講座、ボランティア活動支援プログラム、学生スタッフによる活動、地域・関係機関との連携事業など当時とは比べものにならないくらい充実し、成長・発展してきていることは喜ばしい限りです。ボランティアセンター、学生スタッフ、学生ボランティアの皆さんのご努力に敬意を表します。

私は、開設当初から、関西大学の規模からすると、大学への登録ボランティアは在学生の10%以上が必要だと考えていましたが、近い将来その数値を達成するものと期待しています。関西大学ボランティアセンター並びに学生スタッフ、学生ボランティアの活動のますますの充実発展を祈念いたしまして、10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

関西大学ボランティアセンター、開設10周年まことにおめでとうございます。

2015年度ボランティアセンター事業報告

関西大学ボランティアセンターは、関大生のみなさんがボランティア活動を通して多くの学びや気づき、貴重な経験等が得られるよう、日々新たなボランティア活動支援を模索しています。

2015年度、ボランティアセンターは設立10周年を迎えました。10周年記念プログラムとして、「ボランティアセンター設立10周年企画写真展」、「ボランティアセンター設立10周年記念講演会及びパネルディスカッション ～ボランティアセンターの、これまでと、これから。～」を実施し、10年間のあゆみを振り返るとともに、これからのあるべき姿について考えました。

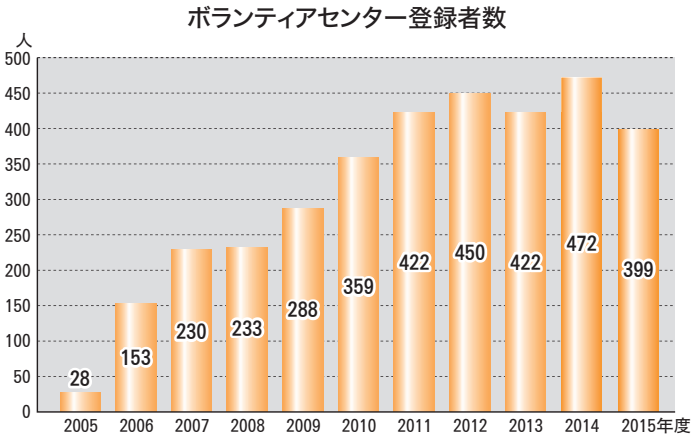
ボランティアセンターの取り組みについての広報にも力を入れ、ボランティアセンターメール登録者に対してボランティア体験ツアーやおすすめボランティアの案内、講座の案内を行いました。また、ボランティアセンター主催講座や学生スタッフ企画のボランティア体験ツアーをまとめた「ボランティアカレンダー」の作成・掲出を行いました。

2015年度は千里山キャンパス以外のキャンパスでの広報にも力を入れました。昨年度より高槻キャンパスに学生スタッフが誕生したことにより、2015年度は新入生歓迎行事を高槻キャンパスでも行いました。また、高槻キャンパスの学生のボランティア参加者が増加しているため、普段、千里山キャンパスにて実施している、関大クリーン大作戦を「関大クリーン大作戦in高槻」とし、高槻エリアにおいても実施するなど、活動の幅を広げた１年となりました。

センター登録者は累計3,456名を突破しました。

データ ボランティアセンター登録者数

年度	登録者数
2005	28
2006	153
2007	230
2008	233
2009	288
2010	359
2011	422
2012	450
2013	422
2014	472
2015	399
計	3,456



2015年度ボランティアセンター事業概要

1 学生スタッフ育成及び学生ボランティア団体への支援

①学生スタッフガイダンス
②学生スタッフ養成講座
③学生スタッフ養成合宿
④学生スタッフ代表者及びグループリーダーとのミーティング
⑤ボランティアセンター教職員と学生スタッフの懇談会
⑥学内ボランティア団体とのミーティング
⑦学生スタッフ活動報告会
⑧学生ボランティア団体合同企画「ボランティアフェスティバル」

2 本学学生のボランティア活動支援のための講座・プログラムの実施
（2015年度の主なもの）

①ボランティア入門講座～ボランティアって何？～
②ボランティアセミナー はじめよう！ボランティア
③コミュニケーションスキルアップ講座「学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー」
④災害ボランティアガイダンス
⑤テーマ別講座「レクリエーション講座」～“遊び”の幅を広げるために～
⑥ボランティアセンター設立10周年記念講演会及びパネルディスカッション「ボランティアセンターの、これまでと、これから。」
⑦動物愛護フィールドワーク ～動物愛護について学ぼう～

3 学生スタッフによる活動

①ボランティア情報の紹介
②新入生歓迎行事「学生スタッフ活動紹介」
③関大クリーン大作戦～図書館の本の落書き消し～
④関大クリーン大作戦～大学周辺の清掃活動～
⑤関大クリーン大作戦 in 高槻
⑥ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～
⑦ボランティア体験ツアー～小学生に防災について楽しく学んでもらおう!学童ふれあいボランティア～
⑧ボランティア体験ツアー～子どもと学ぼう国際理解@キッズミュージアム～
⑨ボランティア体験ツアー～千里にみんなの光を灯そう!千里キャンドルロード2015ボランティア～
⑩ボランティア体験ツアー キャンパスママまつり in 関西大学
⑪第5回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加
⑫大阪マラソン給水ボランティア事前説明における学生スタッフによるボランティア紹介
⑬頑張る人を学生スタッフと一緒に応援しよう!!～第5回大阪マラソン給水ボランティア～
⑭学園祭企画「めざせ!エコマスター～ゴミの山から宝を見つけよう～」
⑮ボランティアカレンダーの作成

他大学及び学外の機関との連携で行うもの

⑯ボランティア体験ツアー～みんなで守ろう!蛍の光ボランティア～
⑰ボランティア体験ツアー～第27回なにわ淀川花火大会 翌日清掃ボランティア～
⑱ボランティア体験ツアー～アユの産卵場を整備しよう!～
⑲ボランティア体験ツアー花植えボランティア in 高槻～新川を花で染めよう～
⑳ボランティア体験ツアー～芥川掃除～
㉑ボランティア体験ツアー～ミズヒマワリ駆除作戦～
㉒ボランティア体験ツアー明日香村「飛鳥光の回廊」ボランティア
㉓ボランティア体験ツアー～景観ボランティアin明日香村～
㉔第5回「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」
㉕エコキャップ運動

4 連携事業

大阪家庭裁判所との連携事業「大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム」

ボランティアセンター設立10周年記念事業

関西大学ボランティアセンターは、2005（平成 17）年に、「本学学生の公益に適った社会参画活動を支援することにより、学生の自主性と社会性の涵養に資すること」を目的として開設されました。2015（平成 27 年）年はセンター設立 10 周年を迎えたこともあり、記念事業として写真展及び記念講演会・パネルディスカッションを実施いたしました。また、10 周年を記念してクリアファイルや記念タオルを学生スタッフが主体となり制作し、様々な機会で配布することでボランティアセンターの広報活動にもつなげました。

10 周年という節目を経て今後もますますセンターの発展に努め、一人でも多くの関大生にボランティア活動の魅力、また社会に参画することの意義を伝えながら、今後も継続的に関西大学にボランティアの風を吹かせ一人ひとりの活動を支援してまいります。

1　ボランティアセンター設立10周年企画 写真展

ボランティアセンターは 2015 年度で設立 10 周年を迎えた。この 10 年の間に多くの関大生にボランティアを広めてきた。10 周年を節目としてさらに活動を充実させ、一人でも多くの関大生にボランティアを経験してもらえるよう、きっかけ作りを行いたい。そこで、10 周年記念写真展を実施し、ボランティアに参加したことのない関大生にはボランティアセンターと、その活動のこと、そしてボランティアの魅力を伝え、またボランティアに参加したことのある関大生にも写真を通して、様々なボランティアがあることを知ってもらうことを目的とし、実施した。10 年間を振り返りながら写真を探す作業は、現役学生スタッフにとって自分たちのアイデンティティを確かめる“活動”へと変わっていた。過去の先輩たちの軌跡を見ながら、自分たちがその積み重ねを受けて更なる大きな一歩を踏み出すことの重要性を再確認する写真展となった。

日　　時	11月16日（月）～21日（土）
場　　所	千里山キャンパス 凜風館 1 階 ボランティアエリア、ライティングエリア、グローバルエリア
内　　容	ボランティア活動写真の展示

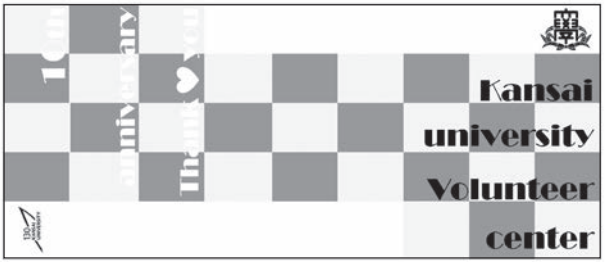
2　クリアファイル

ボランティアセンターと学生スタッフの広報手段として、2008年度から作成しており、配布したクリアファイルは、受けとった学生が日常的に使用してくれることで認知度向上に繋がっている。2015年度はボランティアセンター設立から10年を迎えたことを記念して、「私たちがボランティアでしてきたこと」をコンセプトにデザインした。カメラはボランティアの受け入れ先の人たちなどをイメージしており、学生スタッフだけではボランティアはできず、そういう人たちが支え、見守ってくれる大きな存在であることを忘れないように、そして普段からの感謝を込めて中心に据えた。フィルムは、私たち、そして過去の先輩たちがこの10年でやってきたボランティア体験ツアーを映し出し、その思いをみんなの心の中、思い出の中に記録として残し、それを後の世代に伝えていき新しい物語を紡いでいくという意味を込めた。ボランティア体験ツアーはキャンドルロード、大阪マラソン給水、花植え、キッズミュージアム、ミズヒマワリ、淀川掃除など、ボランティアセンターで活動している中でも代表的なものを選んだ。体験ツアーの登場人物に塗ったたくさんの色は、個性豊かな学生スタッフ、ボランティア体験ツアーを表している。

2015年度版（3,000部）

3　ボランティアセンター設立10周年記念タオル

ボランティアセンター設立10周年を記念し、学生スタッフが考えたデザインでタオルを作成した。作成したタオルは、ボランティア体験ツアーや淀川大掃除の参加者に配付することで、ボランティアセンターや学生スタッフの認知度アップにつながるとともに、共に活動する達成感を感じることができたようだ。



明るい色彩を使用し「Thank ♥ You」という感謝のメッセージを込めたデザインは、“笑顔の花が咲く”ボランティア活動の魅力を形にした温かいものに仕上がっている。

4　関西大学ボランティアセンター10周年記念プログラム ボランティアセンターの、これまでと、これから。

本学にボランティアセンターが開設されて10年が経過したことを記念し、これまでのボランティアセンターの取組みを振り返るとともに、社会における大学ボランティアセンターの役割や、大学生がボランティア活動に参加する意義を考える機会として実施した。

第1部ではボランティアセンターの立ち上げにもご尽力いただいた大阪ボランティア協会常務理事である早瀬 昇 氏にご登壇頂いた。「ボランティア活動が拓く世界～社会とつながる魅力と可能性～」という主題のもと、大学ボランティアセンターの役割と大学生がボランティ

アに参加することの意義についてお話しいただいた。軽妙なトークに会場は盛り上がりながら、今後本学を起点としてボランティア活動の輪を広げる希望と可能性を感じとることができた。

また、第２部では赤尾学生センター副所長の司会進行のもと、早瀬 昇 氏に加えて本学ボランティア連絡協議会委員である本学社会学部教授の加納 恵子 氏、ボランティアセンター学生スタッフＯＢである北畠 知幸 氏、同センター現役学生スタッフである児島 七海にも登壇頂きパネルディスカッション形式で「ボランティア活動で成長に繋がったこと」や「今までで印象に残っているボランティア」についてそれぞれ異なる立場から意見交換を行った。パネルディスカッション終盤に「ボランティアの魅力を伝える機関が必要とされないほどボランティアが浸透した社会が理想」という意見が出るなど、今後そのような社会の実現に向けて本学ボランティアセンターでも様々な魅力的なプログラムを実施し、ボランティアをより身近なものにしていかなければならないと感じた。

日　　時	11月21日（土）14：40～16：50
会　　場	関西大学　第１学舎１号館　千里ホールＡ
講　　師	第１部【講演会】　14：40～16：50 　大阪ボランティア協会　常務理事　早瀬 昇 氏 第２部 【パネルディスカッション】　15：50～16：50 　①大阪ボランティア協会　常務理事　早瀬 昇 氏 　②関西大学社会学部教授　加納 恵子 氏 　③ボランティアセンター学生スタッフＯＢ 北畠　知幸 氏 　④ボランティアセンター学生スタッフ 社会学部 ３年次生　児島 七海
受 講 者 数	100名

※次ページより 10 周年記念講演会とパネルディスカッションの様子をお届けします。

第１部　【講演会】

「ボランティア活動が拓く世界　～社会とつながる魅力と可能性～」

講師／社会福祉法人　大阪ボランティア協会 常務理事　早瀬　昇 氏

こんにちは早瀬です。過分なご紹介をいただきましてどうしようかと思いますけれども、今日は「おめでとうございます」という感じの日ですよね。10 周年を迎えたということで、設立から 10 年たったわけですが、この大学ボランティアセンターを関大につくるという時に少しご相談に乗らさせていただいたことがありました。また、今もずっと経済学部で、前期に NPO・ボランティア論という授業を担当しており、そんなこともあって今日はお邪魔しました。よろしくお願いいたします。

社会福祉法人大阪ボランティア協会は、1965 年というずいぶん昔、50 年前に生まれた団体です。それこそ学生になったときからいろんな意味でずっと関わりを持ってきました。私はもともと理系だったんですね。電子工学の勉強をしてエンジニアになるつもりで大学に行っていたんですが、一方で、大阪にある大阪ボランティア協会でもボランティア活動をしていました。そこで、どちらの道に進もうかなと思ったんですが、「まあ、ボランティア協会のほうがおもろそうやな」と思って、こちらのほうの仕事をし出して、結局ずっとやってきました。5 年前に大阪ボランティア協会を辞めて、今はフリーランスなんですが、今もボランティアとして、大阪ボランティア協会で常務理事をしています。

あと、今もちょっと紹介がありましたけれども、阪神・淡路大震災について、みなさんはご存知でしょうか。「そんなんあったん？」という感じでしょうか。20 年も前の地震なんです。あのときに大きなボランティア活動の広がりがあって、そのこともあり、翌年の 1996 年、東京で日本 NPO センターという団体をつくりました。3 年前からそこの代表をしてるので、よく東京の大手町にある事務所に出向いています。また、いろんな企業からサポートをいただいて、今は東日本大震災の被災地の NPO のサポートをしているんですね。そういうことに関連することから、よく東北に行っています。実は今日このプログラムが終わったあとも福島に向かう予定をしています。

今日は、ボランティアをしながら学んだことというか、得たことがたくさんあって、その辺のところを皆さんと共有することで、ボランティア活動の面白さみたいなものを再確認できたらいいなと思ってまいりました。

それでは、まず 1 つ目に私自身が何でこういう活動をし始めたかという話をさせていただきます。

私が大学に入学したばかり 18 歳の時に、５月３日に、「真夜中に大阪のまちをぐるっと歩いてみませんか」というイベントが新聞に載ってたんです。そこで面白そうやなと思ってしもたんですよ。思わんでええのに。でね、連絡先が東京だったので、何で東京なんかなと思いつつ、東京の連絡先に、「詳しいことが決まったら教えてください」と葉書を送ったんですよ。書かんでよ

かったのに、書いてしもたんです。そして1週間ぐらいしたら、「何月何日に説明会をしますから、天王寺のココに来てください」という連絡が来たんですよ。で、行ったんですよ、行かんでよかったのに。この時、関西からは20通ぐらいそういう問い合わせがあったそうなんですが、実際に行ったんは僕だけやったんです。

そこで、行ったら、そのイベントは「ゆっくりズム」という名前だったんです。「ゆっくり大阪のまちを真夜中に歩きませんか」という話で、「ああ、それ面白そうやな」と思って行ってみたわけですが、「ゆっくりズム」の看板が出てないんですね。どないなってんねんと思ったら、そこには交通遺児を励ます会というグループが会場を借りていたんですよ。交通事故でたくさんの大人が亡くなっていて、それで子どもが遺児、つまり、遺された子どもになる。その多くは母子家庭になるんです。当時の（1972年まで）自賠責の保険金が500万円でした。一番最初、自賠責ができたとき（1956年）の補償額はいくらだったと思いますか。一番最初は30万円です。全然サポートできてなかった。母子家庭としてはものすごく厳しかったんですね。

そういうことがあって交通遺児をサポートするという運動がずっと広がってはいたんですが、「こんなことやっててもあかん。どんどん交通事故で親が死んで子どもが交通遺児になってしまう。これは車社会を見直さなければいけない」という話になったんです。それが「ゆっくりズム」という活動の趣旨だったんです。でも、そんなことを知る由もありませんで、夜中に歩くことが面白そうだなと思って。まあ、「ゆっくりズム」にだまされたっていう感じでボランティアの世界に入っていきました。こんなはずではなかったんですけれど。

ところがですね、そこで面白いことがあったんです。どう面白いことがあったかというと、当時は携帯電話も何もない時代でしょ。今から、42年前。皆さんたちのお父さんお母さん方が若いころの話、携帯も何もないもんやから、何があったかというと、私は結局、夜中に大阪のまちを歩かれへんようになってしまったんですよ。事務局側に入った、スタッフになったんです。

事務所は心斎橋にあったんですが、そこで電話番をすることになったんですよ。すごく地味な活動でした。ところが電話番をしていて何が起こったかというと、「朝日新聞です。今日の参加者は何人いてますか」であったり、他にも「NHKですけど、今、先頭の方はどのあたりにいますか」と電話がかかってくる。18歳の若者がマスコミの取材を受けるんですよ。「ああ、ひょっとしたら俺は世の中を変えてるんではないか」。変えてへんちゅうねん。変えてないんですが、これはすごくおもしろいなと思って。

それから、いろいろなことがありゆっくりズム、そして交通遺児を励ます会の活動がだんだん盛り上がりだした。そこでぼちぼち活動に取りくんでいました。

活動に取り組む一方で私、大学でラグビーもしていたんです。ラグビーはラグビーで面白かった。ところが、そのとき交通遺児を励ます会のリーダーをしていた男が「活動を辞める」って言い出しまして。「僕、学校のことで忙しい」って言うんです。彼は関大の学生でしたので、そう言えば皆さんの先輩ですよ。「あいつが活動を辞めるのなら、もうこのグループも終わりやな」って思ったんです。でも、そこで、何というか、責任を感じたんです。

交通遺児の家庭というのは当時ほとんど母子家

庭でした。まず、交通遺児という場合、親が車にひかれはるか、車を運転していて自分が事故を起こすか両方あるわけですが、交通事故で亡くなる人って実は男性の方がずっと多いんですね。特に当時はそうだったんです。女性の方、お母さんが亡くなる場合もあるんですが、実は、少なくても当時男性が亡くなり、母子家庭になった場合は「母子家庭のまま」なんです。一方で、お母さんが亡くなって「父子家庭」になった場合は再婚される率がすごく高かった。結果的に交通遺児家庭というのはほとんど母子家庭だったんですよ。

子どもからすると交通事故で親を失って、親が30代、40代です。妻からしてみると、30代、40代で急に夫が死ぬんです。お母さんは、いわば普通の専業主婦で働いておらず、家で家事をされている方が多かった。その人が急に夫を失ったら、どうなるか。職がないんです。だから、ものすごく厳しい生活に移行するわけです。そういうなかでずっと家庭訪問して勉強を教えたりしていたんですけど、その子らのことを思うと、「これはどうなんやろう」「活動を辞めてしまっていいのかな」と思って。それでまあ、結局、私が代表になったんです。そこからちょっと活動にのめり込んだというか。

ボランティアっていうのは、ご存じの人はご存じだと思いますが、「いつでも、どこでも、誰でも、気軽に楽しく」できるものです。「いつでも、どこでも、誰でも、気軽に楽しく」。災害時はたくさんのボランティアが活動しますよね。災害時のボランティアというのは、実はすごい初心者向きなんです。なぜ初心者向きかと言いますと、行ける日に行ったあと、その後1回も活動しなくても、ちゃんと役に立つからです。1日限りでも全然大丈夫、現地に行けば役に立てるんです。つまり、災害ボランティアは単発の活動がオーケーなんです。だから、結構活動に入りやすい。

ところが、先ほどの家庭訪問のようなことをしていると、何というか、ぽっと行っておしまいというわけにはいかないので、縁が、つながりができてきますよね。それで「いつでも、どこでも、誰でも、気軽に楽しく」できる部分も時にあったりするんやけど、ううん、この活動は違うと思って。やっぱりボランティアっていうのは、あるときに自分で責任感をもつと、ぐっとレベルが上がるというか、段階が上がるんですね。そんなことでボランティア活動をずっとやってまいりました。

でね、これからボランティアをする人、すでにされている人、きっとこういう場に来られる人なので、既に活動されている人が多いとは思いますが、ボランティアって大層なものではないという気がするんです。どういうことかというと、結局、私がこの活動を始めた基本のパターンは、「腰の軽さ」です。手軽に入ってみたり、その場に行ってみたり。腰の軽さというのはフットワークです、簡単に言うとね、フットワーク。フットワークというのが色々なものをつくる。

皆さんこれから社会人になったときに、私は「ネットワーク力」という力がものすごい重要なことだと気付かれるのだと思います。色々な人と知りあっているということがものすごい大きい。ネットワークというのは、どうやってつくっていくか。それは、「フットワークの足し算」なんです。いろんなとこにちょこちょこ行っていると、だんだんネットワークというのはできてくる。ネットワークといったら、難しそうに聞こえるかもしれませんが、要は面識なんですね、「あの人知ってる」ということです。

僕はその辺のところをすごく教訓に感じたのは、阪神・淡路大震災のときなんですが、阪神・淡路大震災のときに、大阪ボランティア協会では、被災地にボランティアセンターをつくりまし

た。日本で最初の災害ボランティアセンターです。

大阪ボランティア協会は本当に小さなNPOで、職員がちょっとしかいませんでした。災害ボランティアセンターには、大阪ボランティア協会の全職員の7割ぐらいが行っていたんですが、それでも全然足りませんでした。ですが、そこへどんどんスタッフが増えてくるんですよ。アルバイトを雇うとか、そういったことだけではなく、他の団体からのスタッフが集まってくる。

人数が足りないので、なんとか助けを求めようと全国のボランティアコーディネーター、社会福祉協議会のボランティアセンターで働いている人、その人たちに応援を頼んだんです。「1週間だけでええから来て、頼むわ。もう人足らへんねん」って言って頼んだ。その後、この人たちは、ボランティアセンターの職員が2人ぐらいしかいないので、1週間職場をあけるのが精いっぱい。それで、これはだめだということで次の手を考えました。それは、付き合いのあった経団連の社会貢献担当者、トヨタや三菱商事の担当者達にも来てもらうことです。彼らはその要請を引き受けてくれて1カ月の間、協力してくれました。

しかし、これだけではやっぱり足りないというので、キンチョールとか、サクラクレパス、クボタという会社がリーダーになっている大阪工業会というグループ、ここが2週間ずつ協力してくれた。こんなことで、ものすごいたくさんの有給職員が集まってボランティアセンターをつくったんです。これが何でできたか。

それは、ネットワークなんです。つまり、震災以前からこういう人らのことをよく知っとったんですよ。僕は本当にあのとき思いました。「無駄にお酒を飲んでなかった」っていうことですよ。本当に行く先々で酒を飲んでいるわけです、そういった仲間と。ネットワークって何かっていうたら、携帯電話を知ってる人の数ですね。携帯電話の番号を知ってる人のことをネットワークと言うんです。ネットワークは難しい組織じゃない。携帯でつながる人というのは、自分たちの仲間です。ですから、そういうやっぱり腰の軽さというのが大切。ボランティアはそういうものだという話でございます。

最後、この話だけしてやめようと思います。いろんなつながりができてくるわけですが、これを何て読むかおわかりになるでしょうか。「絆される」。ボランティアっていうのは絆をつくるものだと思うんですね。「絆される」、これは私たちもよく使いますよ。漢字を使わなかったら、みんな知っている言葉です。「絆（ほだ）される」と読みます。

絆（きずな）っていうのはね、日本語ではすごくいい言葉になっています。中国人の方がいらっしゃったらご存じかと思いますが、中国語で「絆」っていうのはあまりいい言葉ではないですね、拘束を意味しますから。もともと「絆」っていうのは家畜をつないでる首綱や、馬の奇の騎綱というところからきている言葉ですね。今は「きずな」の「ず」は「す」に点々を書くのが普通ですけど、もともとは「つ」に点々だったんです。

今、「絆は」って言ったら、こういう背景があると思うんですよ。皆さんはボランティア活動をされてる人です。そして、ボランティアに来てほしい人たちがいらっしゃいます。ボランティア活動したい人と、ボランティアに来てほしい人たちというのはですね、双方一生懸命やってるわけですが、一般的にはボランティア活動をしたい人のほうがボランティアに来てほしい人よりも、数が多い場合が一般的です。

阪神・淡路大震災のときに「ボランティア活動をしたい」って来てはる人たちが結構多かったんですね。私たちのセンターには2万1000人ぐらいの方が来られました。一方、ボランティア

に来てほしいっていう依頼が4800件、すなわち4倍以上、「したい人」のほうが多いのです。でも双方の関係が難しいんですよね。

なぜか。それはボランティアに来てほしい人は、本当はボランティアに来てほしくないからです。なぜか。本当は家族に来てほしいんです。本当は行政の制度を利用したい。本当は企業のサービスを買いたい。赤の他人に権利としても要求できないことを、お礼も払わずに援助を受けたい人は少ないんですよ。

皆さん、どうですか、ボランティアを結構やってる人も多いんじゃないかと思いますけど。「いや、役所よりも、家族よりも、企業よりも、ボランティアがいい」って言ってくださる方がいればうれしいんですけれど、実際にはそんな人はいません。じゃあ、なぜ「ボランティアに来てほしい」って言ってくださるのか。「家族は、みんなが被災している」「行政はパニックになっている」「企業を利用したくてもお金がない」。仕方なくボランティアに頼むんですよね。しかも、ボランティアっていうのは無償でしょ。遠慮してしまいがちです。

このあたりをどう考えるか。それが先ほどの関係にもつながるんですが、赤の他人に、権利として要求できないことを、お礼も払わずに援助を受けるって、しんどいことです。しんどいことなので、そんなときに普通どうするかって、普通は支援を受けることを諦めますよね。

そこで、最後、こんなことも活動の中で教えてもらったのでお話したいと思うんですが。ボランティアをする人と受ける人の関係って、実はボランティアをする人の方が、上から目線になってしまいやすいんです。それをどう改善したらいいのか。それは、ボランティアに来てほしいと言っている人がどういう人かということを考えることなんですね。そうすると、別のつながりができる。

ボランティアに来てほしいという人は、普通はボランティアを呼ぶことを諦めますよね、赤の他人に、権利としても要求できないことを、お礼も払わずに援助を受けるのはしんどいから。ところが、ボランティアの応援を求める方は、諦められないんですね。今の状況を何とかしたいという思いがあるから。ボランティアっていうのは、その「思い」に共感するんですね、「ああ、それすごいな」って。かわいそうやからするというよりも、一緒に活動できたらいいなと思うんですね。そうなると共感する関係になるでしょ。「私【する人】、あなた【される人】」じゃないんです。同じ夢を実現する仲間になるということなんですよ。

しかも、ボランティアのやる気を強めるのは、依頼する人の夢の提示の仕方とか、自発的な姿勢なんですね。だから、ギブアンドテイクとは違う新しい人間関係ができる。このような人間関係づくりっていうのは、たぶん皆さんが社会人になられるとき、いろんな取引先との関係でも、行政との関係でも、同じ夢を共有できたら、すごい面白い関係ができる。たぶんボランティアっていうのはそういうことを学ばせてくれる機会なのではないかと思います。最後のあたり、端折ってしまい申し訳ございませんでしたが、これで私の話を終わりたいと思います。どうもご清聴、ありがとうございました。

第２部　【パネルディスカッション】

（司会）	関西大学　学生センター副所長・文学部教授	赤尾　勝己 氏
（パネリスト）	社会福祉法人　大阪ボランティア協会　常務理事	早瀬　　昇 氏
	関西大学　社会学部教授	加納　恵子 氏
	関西大学　ボランティアセンター学生スタッフ OB	北畠　知幸 氏
	関西大学　ボランティアセンター学生スタッフ	児島　七海 氏

○赤尾　それでは、時間になりましたのでこれから第２部のパネルディスカッションを開始したいと思います。まず最初に私のほうからパネリストのご紹介をさせていただきます。パネリストの１人目は講演会から引き続きご登壇いただきます大阪ボランティア協会の早瀬昇先生です。

続きまして２人目は本学ボランティア連絡協議会委員であり、社会学部の教授を務めてらっしゃいます加納恵子先生です。加納先生は、社会福祉学、地域福祉論を専門とされておりまして、社会活動としましては内閣府の障害者政策委員専門委員、大阪府男女共同参画審議会委員、また日本障害者リハビリテーション協会の活動にも取り組まれていらっしゃいます。加納先生、どうぞよろしくお願いいたします。

○赤尾　３人目は、2014 年３月に本学を卒業されました北畠知幸さんです。

北畠さんは、学生時代は本学ボランティアセンターの学生スタッフをされていました。大学入学後すぐに、何となくボランティアセンターが主催している清掃ボランティアに参加したことがきっかけで学生スタッフになられたとのことで、2011 年度にはボランティアセンターの学生スタッフの代表を務めておられました。本日は学生時代のご自身の活動も思い出しながら意見交換をしていただければ幸いでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後の４人目のパネリストは、本学ボランティアセンターの現役学生スタッフであります児島七海さんです。

児島さんは現在、社会学部の３年次生です。大学入学前から関わっていた学習支援のボランティアを通して学生がボランティアに関わることの意義や、ボランティアから社会問題に触れることの大切さを広めたいとの思いから学生スタッフとしても活動を開始し、2014 年 11 月から副代表を務めております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上４名の皆さまとこれからディスカッションをおこなっていきたいと思います。パネリストの皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

[今までで印象に残っているボランティア]

○**早瀬**　昔、『ボランティア拒否宣言』という資料を、障がい者の方が書いて、すごくボランティアの偽善さのようなものを突いてくる詩があったんです。そのことについてみんなで話し合ったりしていました。一線を越えて、何か援助する人とされる人というのではなく「人間同士でぶつかり合う」という体験ができたのが面白かったなと思います。

○**赤尾**　ありがとうございました。それでは加納先生、いかがでございましょうか。

○**加納**　早瀬さんと私、実は同世代なんです。で、自己紹介代わりにということで、印象に残ってる私のボランティア体験の話なんですけど、大阪の地下鉄にエレベーターを付ける運動。それは、私も皆さんと同じでとても初々しい学生だったときに出合いました。早瀬さんともこの運動で共に活動しておりました。

でもね、1点、早瀬さんと違うところは、私自身が2歳半のとき、ポリオって言ってね、小児麻痺にかかったんです。今はもう予防接種ができ、世界でも撲滅センターができたんですよ。一番最後に残ってたインドが大変やったんですけれども。このボランティアのタイトルは「そよ風のようにまちに出よう」というさわやかですてきなもので、私も一緒に車いすを押して行ったんです。そしたら、まあ段差だらけ。今みたいになかなか喫茶店も入れないというバリアフルな状態でした。でも、あえて繰り出して行くんです。そして、地下鉄に、阪急に乗ろうとするんですが、まず駅員さんが私たちを止めます。で、車いすを押している私のほうに向かって話しかけてきます。私は駅員さんに「私は単なる介助者ですから、車いすに乗ってる人に話してください。」と促します。車いすの当事者は、重度の言語障がいがある脳性麻痺の方です。駅員さんは一生懸命聞き取ろうとするけど聞き取れない。当時の障がい者解放運動では、安易に通訳をすることは禁じられていました。効率が悪くても「生の声に耳を傾け聞き取る努力」を求めたのです。駅員さんの対応も様々で、時には無賃乗車を見逃したり（話し相手をすることが邪魔臭かったんでしょうね）、見逃さずに駅長室に連れていかれました。これが狙いです。車いすのアクティビストは、駅長さんに「段差だらけの駅を作っておいて車いすユーザーを排除して、やっとの思いで階段をのぼって来たんや。これでも他の乗客と同じ運賃取る気か」と議論を吹っ掛けます、しかも初めての人には聞き取るのが難しい言語障がいのある本人の生声を駅長さんは何度も何度も聞き返しながら聞き取っていきます。介助者として付き添っている学生の私は、通訳したい気持ちを抑えて、駅長さんには本人の訴えを直に聞いてくださいと部外者に徹します。

こんな喧嘩行脚の積み重ね、団体交渉、署名運動・・・といった当事者運動があって、今の交通バリアフリー法があり、関大前駅にもエレベータが数年前にやっと設置されたわけです。

当時の福祉の目指してるところは、施設福祉が中心でした。しっかりした専門家がちゃんとした施設を、あるいは医療関係とかもそろえて「コロニー」っていう発想だったんですね。要するに、一般の地域社会はバリアフルやからそこからお引き取り願って、別のところでつつがなく暮らしてもらったらいいねっていう発想だったんです。ですが、「そよ風のように」車いすでまちに出ていくことで、「福祉の専門家になるための勉強もいいけれども、専門家を目指すより、地域が変わったほうが早いな」と思ったんです。そして福祉関係の道へ進むことになり、今に至るわけ

です。

私は先ほどご紹介いただきましたように、地域福祉論という科目を社会学部で教えているんですけれども、「はみ出す福祉」、「生み出す福祉」といった具合に福祉を「広がっていくようなもの」として捉えながら、地域福祉を教えています。現在の活動の原点というのがこういうボランティア活動だったということです。昔々のお話でしたが、以上です。自己紹介に代えまして。

○赤尾　ありがとうございました。それでは、北畠さんいかがでございましょうか。

○北畠　私はボランティアセンター学生スタッフとして4年間、関西大学でボランティアに携わっていました。学生スタッフというのは、関西大学の学生にボランティアを広めるという理念がありまして、自分自身ボランティアに参加する側でもありますし、ボランティアをしたい人と、ボランティアを求めている行政機関、ボランティア団体、NPO法人と「ボランティアをしたい人」をつないでいくコーディネーターという側面もあります。自分たちでボランティアイベントの企画をして、関大生に周知をし、参加した関大生と一緒に活動するという「主催者としてのボランティアの携わり方」もありました。本当に色々な携わり方をしてきました。

主催というかたちでは学内の清掃であったり、関大の図書館の本の落書き消しというボランティアをやっていました。また、高槻の芥川で、胴長を着て川の中に入って外来種の草を鎌で刈り取るというボランティアも実施しました。また、東日本大震災のときは、関西大学からバスを出していただき、東北のほうでボランティアをしていたりとか。

ボランティアセンターの活動以外でも、近所の小学校で赤ちゃんぐらいの本当に小さい子から2歳ぐらいまでの子と遊ぶボランティアをしていました。また、大学4年次生のときだったと思うんですけれど、京都で大雨による水害があったときは、南丹市のほうに1人で原付を飛ばして京都の山を越え、2時間かけてボランティアをしに行って、2時間かけて戻ってきてといったこともしました。

一番印象に残っているボランティアを語るうえで、まず私のボランティアのルーツからお話します。さっきのプロフィールにもあったんですけど、私が最初、ボランティアを始めるきっかけになったのは、ボランティアセンターが企画していた学内清掃に何となく参加をしたことです。そこでいろんなことを聞いてちょっとボランティアをやってみようかなと。もともと高校のクラブのときにもクラブ活動の一環として清掃活動をやっていました。運動部だったんですけれども、部活動としてやっていまして、その活動が結構好きだったので、それに興味があって学生スタッフになったというかたちなんです。

一番印象に残っているボランティアは、そのルーツと関係している淀川大掃除です。今もボランティアセンターでは淀川掃除という活動をやっていると思うんですけど、私が大学2年次生のときに結構大きな規模の掃除をやろうということになりまして、あのときは500人、600人ぐらいの学生を集めて淀川で掃除をしました。私がボランティアセンターの代表のときにやろうと思って、それが最初の1回目です。そこから毎年実施しています。

最初は右も左も分からずに、いろんな人を集めたはいいものの、どう運営していくかっていうのもわかりませんでした。自分は参加する側ではなくて運営する側だったんですけれど、500人という人数はすごく大人数なので、統制をとるというのも大変ですし、果たして本番がうまくい

くのか、たくさん不安はあったんですけれど、学生スタッフのみんなで毎日遅くまでいろいろと調整をしました。そして、当日いろんな人に来てもらって、何とか成功を収めることができました。

そのときに学生スタッフのなかでちょっと感極まって泣いてるスタッフもいまして、なかなかボランティアで泣くっていうようなことをそれまでしたことがなかったんで。それはただ単に達成感というのもあるんですけれど、いろんな人が集まってくれて、自分たちの思いを共有し、掃除をしてくれたのは、すごい感動的だという話をしていまして。私ももちろん達成感がありましたし、同じ１つの思いを共有できる場だったんだなということをそこで感じたので、一番印象に残っています。以上です。

○赤尾　ありがとうございます。それでは、児島さん、いかがでございますでしょうか。お願いします。

○児島　今、北畠さんが全て「学生スタッフがどういうことをしてきたのか」っていうことを網羅されたので。私は今まで印象に残ってるボランティアについて話をさせて頂きます。自分の自己紹介のなかにもあったんですけど、私は学習支援のボランティアを大学に入る前からやっていまして、そこを切り口に自分はもっとボランティアっていうものを広げられるんじゃないかなっていうことで、学生スタッフになりました。

だから、ちょっとだけ学習支援って何なのかということも話したいし、やっぱりそれが自分のなかでは一番軸であると同時に、存在が大きくなっているんで、そのことについて、少しお話しします。ボランティアって困ってる人がいるから始まるなというのを思っていて、誰かが求めてくれてるからスタートが必ずあると思うんですけど、この学習支援の背景にもやっぱり子どもの貧困という、最近やっと新聞とかでもよく取り上げられるようになった大きな社会問題があるんですね。それを受けて毎週１回公民館だったり、青少年支援施設みたいなところで、子どもたちに学習面のサポートをしながら、実は居場所づくりという面が大きい、そんな活動をずっとやっています。

先ほども早瀬先生のお話でもあったんですけど、ボランティアってすごい気軽にできるっていうものでもありつつ、継続的にやるとやっぱり責任感が伴ってくるものだなと。で、その責任感によってやっぱりすごい悩むんですよね。正直、別にアルバイトでもないし、お金も関わってないし、そんなに自分がやらなくてもいいことなのかもしれないんですけれど、その「責任感」を伴うことによって、やっぱり得られるものもどんどん大きくなっていって。

初めて自分が１年間丸々関わった子どもたちを見送るというか、高校生になったら学習支援は一応終わりなんです。そのときにやっぱり感じたのは、何か自分が学校の先生になったというか、ああ、こうやってボランティアを通して人と関係性を築いていくんだな、と。支えるというか、どっちかっていうと伴走するという感じなんです。その子と一緒にずっと過ごしてきた時間っていうものの、やりがいとかを感じたときに、「ああ、ボランティアっていいな」と思ったし、これをボランティアとしてやることの意味ってすごい大きいなと感じました。そういう思いがあって今に至ってるかなと思います。

ただ、片や、やっぱり継続性のあるボランティアだけが素晴らしいということではなくて、私がボランティアセンターで出合ったボランティアのなかで「いいな」って印象に残ってるのは、

大阪マラソンの給水ボランティアですね。何でこれがすごい印象に残ってるかというと、すごい一体感が生まれてるところが好きで、ランナーの方とボランティアの人って、給水をしてる人と走ってる人なので役割はまったく違うはずだし、大阪マラソンに参加してる目的も違うんです。でも、その場を共有してる人たちとすごく単純に楽しめるんです。しかもボランティアをやってる醍醐味ってやっぱり、「ありがとう」とか「お疲れさま」とかいう言葉だと思っているんですが、そういう言葉をダイレクトにもらえて、すごいその場の一体感みたいなものを感じられるんですね。私はこのボランティアをやっていて楽しいなと思って、一番印象に残ってます。

○赤尾　ありがとうございます。ただ今、4名の方にお話を伺っていますと、早瀬先生と加納先生、それから北畠さんと児島さんとの間で大きな世代的なギャップがありますね。そこで、早瀬先生や加納先生のほうから何か若い北畠さんや児島さんに対してお聞きになりたいようなことはありますか。

○早瀬　僕らのころのボランティア活動っていうのは、何というか、反体制運動的やったんですよ、実は。会社でね、企業のボランティアしてるなんていうやつはもう絶対いません。もう隠してなあかん。つまり何か、まだ冷戦という時代やった。

　そういう時代やったんで、社会問題に関わるって非常にネガティブっていうか、逆にそこで反骨心が出る場合があったり。今そういうことって全然ないんだけど、ボランティアっていいことですよね。そのなかで、何かむずがゆさというか、その辺はあります。それをうまいこと利用したらいいんじゃないですかね。

○北畠　そうですね、私は今、社会人2年目なんですけれども、会社の人に「大学時代、何やってたの」っていうふうに聞かれると、「大学時代、ボランティアの団体に所属していろいろやってました」って答えるんですけれども、だいたい「すごいね」って言われるんですよ。

　ただ、私はそれがあんまり好きじゃなくて。

○早瀬　嫌やねんね、うん。

○北畠　別にそんなにすごいことをしてるわけではないので、何かそれがむずがゆいですね。昔と逆のベクトルにすごいいってしまってるっていうのはありますね。そこのちょうど真ん中で、自然に誰もがボランティアできるような状態が理想じゃないですかね。

○早瀬　僕らのときはほんとうに「変人」やったんで、ボランティアをやってるやつ。

○加納　そうですね、まあ変人の1人というか。ボランティアっていう言葉自体がまあ、そういう扱いでした。

　何かこう青年奉仕活動とかがなかったんですよ

ね。それに対して新しく「いやいや、社会活動だ」という発想が出てきた。みんなはそういう世代で、われわれのころはちょっと萌芽期というか。

ラジカルな時代だったんですけど、今の人たちにも、何というか、やっぱりボランティアの「やる気・世直し・手弁当」っていうところは引き継いでもらいたいなっていう気持ちはあります。だから十分引き継いでおられるというのはうれしく思いましたけれど。

○**赤尾**　ありがとうございます。そういうことで、最初のこのテーマでございますが、「今までで印象に残ってるボランティア」というところで自己紹介を兼ねてご紹介いただきました。そういう意味での世代の違いみたいなものから、ボランティア活動というのが市民社会のなかに完全に浸透していったことで、もともと持っていた反体制的なとか、ラジカルだとかいったものがだんだんと薄まっていった。それが社会のなかにうまく取り込まれていったというか、そういう状況のなかに今、若い皆さんたちはいらっしゃるということなのだと思います。

[今後チャレンジしたいボランティア]

○**早瀬**　ボランティアは社会のなかである程度「そんなんあるわな」っていう感じになってきているし、最近はソーシャルであることって企業にとってもすごい重要なことですよね。「社会的にいろんなことしてます」ということが、すごい企業のなかでも重要になっていて。

ボランティアの意欲っていうのは、やる気があるからできるのではないんです。できるから、やる気があるんですよ。これはあらゆることがそうなんですけどね。ボランティアに限らず、勉強でもそうですよ。勉強する、やる気がある人が勉強できるんと違う。勉強できるから、勉強する気になるんです。これは40年ほど前にエドワード・デシという人が発見した、心理学上の知見ですね。内発的な意欲というのはどういうふうに生まれるか。それは達成感なんですよ。達成感が意欲を高めるんです。だから、意欲があるから達成感ができるのではない。逆なんですよ。だから、できる体験を、どんどんつくっていくとおもしろいんではないかなと思います。

○**赤尾**　ありがとうございました。加納先生、お願いいたします。

○**加納**　はい。「今後チャレンジしたいボランティア」ということなんですけどね、先ほど初々しい学生時代の話をしたんですが、もうちょっとここに至るまでが長い歴史、人生があるんです。皆さんにとっては学生の次ですね、スタートは非常勤講師として大学で教えたり、それから結婚・出産し、振り返ってみるとですね、何て言うか、生活に応じたかたちのボランティアを自分のなかで工夫して続けてきたというのがあるんですね。

さっき「頼む力がつながる力や」という話もありましたけれど、核家族態勢で子育てをするときに頼む力がないと大変なんですよ。まず首がすわらない赤ちゃんを片手でどう抱くかみたいなね。新米の母親ですから、地域、近所のベテランのばあちゃんたちに、SOSを出すんです。そうすると、「うちの息子には近所にばあちゃんができて」というような状況になるわけです。一方で、保育園とのつながりで、子どもの読み聞かせの会のようなことが地域ではじまるわけですね。

こうした地域のつながりが子育てを楽しくする。まじめに1人で一生懸命、「よいお母さん」

をやっていると、窒息しますね。孤立したりすることもありますし。そういう意味では、やっぱりボランティアというのは、その生活を広げていく。風通しをよくしていくっていう効果があります。そうやって私も国際交流関係や、ホームステイの受け入れなど、その時々に合わせたかたちの様々なボランティアをやっていました。

皆さんもそれぞれの世代、それぞれの生活、そういったなかからボランティアの面白さっていうのを味わってください。一度味わったら、忘れられないというものとして関わってもらえたら。シニア世代の私としての今後のチャレンジは、学生時代から好きだった「アート」を通して多様な人が繋がれる活動を「マイ地域」で生み出していきたいなと夢見ています。

○赤尾　ありがとうございます。それでは、続きまして北畠さん、いかがでございますでしょうか。

○北畠　はい。社会人になりまして、やはり学生のときに比べると、自分の自由に使える時間が少なくなってきて、なかなかできてないのが実情です。ただ、今、サラリーマンをしながらもボランティアをされてる方はたくさんいるので、何とか自分の時間をうまくつくって、何かできたらいいなと思います。

あとは、会社でも、「会社として」ボランティアをやっていくっていうものがありまして。強制ではないんですが、今そういうところが多いと思うんです。私もそういうものに参加できたらいいなと。で、先ほど紹介のときに言っていただいたんですが、今、私は自転車のメーカーに勤めていまして、自転車の営業をしています。会社のボランティアとして、会社が大阪の柏原市にありまして、その柏原市にある児童養護施設の子どもたちの自転車をボランティアで直してあげるという活動をやっています。

私はまだ機会がなくて参加はできてないんですけれども、この活動はうちの会社は自転車のメーカーで自転車の知識を持った人がいるからできるボランティアです。なので、社会には誰でもできるボランティアが色々ありまして、それも大切ですし、面白いんですけれども、ちょっと自分だからこそできるボランティアを考えてみていて。まあ自分にしかできないっていうのは言い過ぎですけども、自分が自転車のメーカーに勤めているから、自転車に対するボランティアができる。

私は今、枚方市に住んでるんですけれども、枚方市にはこういうボランティアがあって、例えば奈良に住んでる人はなかなかしにくいけれど、枚方に住んでいるから私はそのボランティアに気軽に参加できるとか。ここにいる皆さんは学生の方が多いと思うんですけれども、学生で平日に時間があるからこそできるボランティア。逆に平日は仕事だけど、土日にできるボランティア。自分の今の社会的なポジションであったり、生活するうえのパターンであったりを考えてみて、自分に合ったボランティアというのを探してみる。

それをやると、自分と社会で必要とされているボランティア、自分の好きなボランティアとのマッチングっていうのは、そこをちょっと意識するとうまくいんじゃないかなと思ってるんです。今の学生の皆さん、例えばそういうことを考えみて、地域性であったり、生活様式であったりっていうのを考えることができたら、ボランティアの芽も広がるんじゃないかなと思います。

○赤尾　ありがとうございました。地域性であるとか、仕事の中身であるとか、そういったとこ

ろで自分でやれるボランティアをやっていきたいということですね、はい。それでは児島さんお願いします。

○児島　はい。今言おうとしてたことがかぶっちゃって、うわって横で思っていたんですけど。最近ちょっと、子どもに関するボランティアっていうか、支援をしている団体さんを見る機会がたまたまありまして。そこで本当に自分が知らなかったボランティアを知りました。例えば、双子の家庭を支援するボランティアっていうのが今あるんですよ。しかもそれ、学生さんのボランティアです。

どういうことに関わるかというと、双子の家庭の親御さんが集まる会があるんですが、で、その会の間保育みたいなかたちで双子の子どもたちと関わっているボランティアがあったりだとか。あと、地域でおじいちゃんがよく将棋をしていて、その将棋クラブに小学生が来て、そこに将棋が好きな大学生がボランティアとして入るだとか。何か子ども１つをとっても、関わり方って本当にいろいろあって。他には散髪ボランティアとかもあるんですね。

だから、自分が好きな子どもと関わるボランティアは何だって思ったときに「ああ、学習支援だ」みたいな感じがあったんですけど、今はすごいいろんなことがあって。自分が好きなことを生かせるボランティアというのが本当に今幅広くできてるので。今後チャレンジしたいボランティアというくくりで、ロビーワークボランティアというのも挙げてたんですけど、正直、本当にいろいろあり過ぎて、どれもやりたいなみたいな感じで思ってるので。まずは自分が好きなことが何かって考えるところから、はじめてみたいというふうに思います。

○赤尾　ありがとうございます。児島さんからは子どもに関するボランティアをやっていきたいというお話でした。ここでまたちょっとね、4名のパネリストの皆さんたちの間での話なんですが、先ほど早瀬先生のほうからアメリカでは週末３時間で完結するような、そういうボランティア活動があるというふうにおっしゃいましたね。

こういったものがある背景というのは、やっぱりアメリカ社会の、日本の社会との違いなんだけども、アメリカはやっぱり教会活動、そういったものがやっぱり背景としてあるということでしょうか。

○早瀬　宗教は関係ない。宗教がもしも関係あるなら、ポーランドなんかもっと活発ですよ。宗教じゃない。あの国は、政府が嫌いなんですよ。政府に管理されるんやったら、自分らでするっていう、そういう国ですね。宗教心だったら、イタリアのほうがもっと活発だと思いますけどね。宗教性と市民活動の参加度との間に相関関係がないという。

逆に日本人は結構宗教心がないようであるような世界ですから。要は、ボランティア活動っていうのは自分らで自分らの社会をつくるということですよね。

○赤尾　なるほど。はい、ありがとうございます。加納先生のところでも、子どもっていう話がありました。あとの北畠さんの場合もそうでしょうし、児島さんでもそうですけど、今、子どもの育ちということがとても私にとっても重要なテーマになりつつあると思うんですね。子どもたちの遊びとか、メディア環境のなかで「生の自然」に触れられないとかね。そういうなかで子どもはこれからいったいどうなっていくんだろうかという、そういう何か危機感というものが若い皆さんたちの間にもあるのかもしれませんね。その辺のところを、ボランティア活動を通して子どもたちのこういう部分を何か伸ばしていければというものがあったら、ちょっとお伺いしたいんですが、いかがでございましょうか。加納先生からお願いします。

○加納　若い世代、特に子どもはね、やっぱりお兄ちゃん、お姉ちゃんのことが大好きですから、そういう意味でどんどん色々な面白いことを企画していったらいいんだろうと。楽しんでたら、集まってくるっていうのがあると思うんです。ただ、先ほどね、児島さんが言われたように、やっぱり子どもの貧困と言われるような、家庭間での格差ですよね。恵まれた家庭で、関西大学へ来てる皆さん、まあまあ恵まれた家庭でっていうことを自覚されてるのかと思うんですけれども。

ただ、やっぱり、さっき言われたように、自分たちの社会のなかにいる。そうやってしんどい子がいる、しんどい人がいる。自分もその社会の一員だという意味では放っておけないですよね。特に子どもっていうのは、何も自己主張を言えないですよね。子どもの権利で認められるようになってますけれども、現実的には難しい問題があります。どんなことでも楽しくとにかく遊ぶ、解放してあげる。そういうことが大事かなと思います。

○赤尾　ありがとうございます。北畠さん、先ほど子どもたちにボランティアとして自転車の修理ということだったですね。何かそのなかで得られたようなことはございますか。

○北畠　会社としてボランティアで小さい子の自転車の修理をやってるんです。僕はまだ参加したことはないんですけれど、同期の社員が参加しているんです。自転車を直すということで子どものところに行ってるんですけれども、修理自体はすぐに終わって、あとの時間は結構遊んでるらしいんですね。自転車を直してくれるのもうれしいんですけれども、一緒に遊んでもらえる。先ほど加納先生がおっしゃられていましたけれど、お兄ちゃんお姉ちゃんと遊んでもらうっていうことは、すごい子どもが喜ぶんですね。

そこの施設も児童養護施設で、家庭の事情で預けられてる子が多いので、余計にそういうことがうれしいんです。で、色々な子どもと関わるボランティアっていうのがあると思うんですけれども、そこで大人の、年代が近めの大人、高校生、大学生と遊ぶことで、子どもたちが大きくなったときに下の子に何か遊んであげたり、そういう活動に参加していったりとか、まちで見掛けたときにその子を思いやる気持ちであったりというのが育まれていくのじゃないかなと、すごく感じています。

そのボランティアに行っている同期も、遊ぶこと自体も楽しいことであって、何かあんまり「ボランティア」って堅苦しく考えなくても、「近所の子どもと遊んでいく」ということが、地域社会とか、その子にとっていいことではないかなと感じているようです。

○赤尾　ありがとうございます。ボランティア活動を通して、自分と違う世代の人たちと関わるなかで、子どもたち自身が何か生きる力というのを育んでいける、そんなきっかけになるのかなと思いました。児島さん何か１つ、最後にお願いします。

○児島　はい。なぜ、子どもに関わるボランティアに学生ボランティアが必要なのかってことなんですよ。何でここまで若い人が求められるのかっていうことなんです。会場のみなさんに聞きたいんですけど、皆さんの多くは学生さんじゃないですか。社会人の北畠さんみたいな人もいるわけなんですけど、「学生の今、自分はもう大人だ」と思う人はおられますか。「私は一人前の大人だ」みたいな。ああ、おられないですね。

たぶんこういうことだと思うんですよね。子どもたちと近く遊べる、心はまだ大人じゃないというか、成人はしているけれどとか、子どもたちにとっては、すごく身近なモデル。だから、すごく絶妙なんですね。絶妙だと思うんです。でも、小学生や中学生ほど、責任感がないということもない。ほんとうに絶妙な人たちだからこそ求められていて。そして、すごい自分たちにも返ってくるものが大きくて。だから、子どもに関わるボランティアってやっぱり大学生が関わるべきですし、そこにまた地域のおっちゃん、おばちゃんとかが入ってくると、すごい豊かな地域になるなっていうのはすごく感じています。

○赤尾　ありがとうございます。今日ここにいらっしゃる方のほとんどが学生の皆さんですけれど、そういう若い世代の皆さんたちと子どもとの関わりというのは、そのなかで育まれるものというのは、皆さんにとってもいいものになってくるかなと思います。昨日の新聞にも出ていましたけども、子どもの引きこもりについての全国調査をいよいよ政府がやるというようなことになりました。そういうことで、子どもの生活のあり方みたいなものが、これから明らかになっていくると思います。

[ボランティア活動の意義]

○早瀬　ボランティア活動に学生のときに関わったおかげで大人になれました、みたいな話なんですけども。たぶんね、さっきの障がい者の方々と接して、そこですごく学んだ話がありましたね。つまり、助け合いっていうのは、助けられる人がいないと助け合いは成立しませんからね。助けられることってすごい大変なんですけどね。

助けられるというのは、自分がSOSを出せることじゃないですか。SOSを出せないと、何が起こるかというと、孤軍奮闘なんですよね。何かその自分の悩みを外に出すことって、なかなか難しいんですよね。まじめな人ほど、その辺が厳しい。あとは、人に何か弱みを出すことが人格的に弱い存在であるかのごとく言われるような雰囲気がありますね。そういうことじゃないんだよねっていうのを、うまくボランティアを通してつかんだのが本当によかった。それはつまり、

いろんな人と出会うからなんだけども。

○**赤尾**　はい。それでは加納先生。

○**加納**　私の思うボランティア活動の意義っていうのはね、まず自分の経験から申し上げると、ボランティア活動として自分が車いすを押してたんですね、まだ元気だし。片手ではあるんですけれど、まあまあ押された人は不安だったかもしれないんだけれど、駅の階段の下で、忙しく上り下りしている人を止めて、「ちょっと手伝ってください」って言うわけですね。

そうした活動のなかで私は当事者の方からものすごく怒られたんです。手伝いに行ってて叱られるという。どういうことかっていうと、「あなたは障がい者としての自覚が足りない」って言うんですね。「健常者ぶって、健常者社会のなかで頑張ってええ格好してる。障がいを克服したように」私は確かに頑張って生きてきてたんですよ。何でも挑戦するっていってね、高校のときは卓球も頑張ってやったんだけれども、よう考えたら、やっぱり自分の障がいのある人としてのアイデンティティー、障がいを自分の個性の１つとして含みこんだ自分らしさ、そういったものに改めて出会えたのが、その人たちのおかげだったんです。これまでの自分がいったん否定され、新たな自分に再構築されていく。

つまり、私の場合「当事者であるという自覚」が自分らしさを育てた、ボランティア活動が自分を変えるチャンスを与えてくれます。

ボランティア活動はせまい福祉というより広く市民活動ととらえたほうがいい。で、市民っていうのは吹田市民やからっていうので市民かっていうと、そうじゃない。市民活動っていう意味での「市民になる」っていうのは、やっぱりそういう意味で、意図して「やる気･世直し･手弁当」というようなね、やっぱり社会のなかでの一員であって、この社会をよくしていく、変なことがあったら、おかしいなと思ったら変えていく。そういった市民なんですよね。

パリで大変なテロが起こってます。それに関しては、フランスの同化政策のことが問題になっていますけれども、今やっぱり大変なのは、排除されている若い世代の移民の人たちの不満がその社会に対してああいうかたちですごく過激化して暴動になっていると言われていますね。

そういう意味で、ボランティア活動という社会経験が社会のメンバーになる、つまり包摂されるわけです。特に若い世代、社会人になっていく、まあ卒業したら自動的に社会人って言うんですけれど。よく考えたら、会社人かな。それから縁があって結婚したら家庭人。で、家庭人と会社人しかないんかなって。会社と家庭の間にやっぱり市民として、地域の住民として何かする、つまりボランティア活動のようなものをする。そうするとすごく、生活が豊かになるというかおもしろなってくるという話です。はい。

○**赤尾**　ありがとうございました。加納先生からはその活動を通して自分がこう変わって、そのなかで自分らしさというのが見えてくるという。最終的にはシチズンが、市民がという、そういったお話でした。それでは、北畠さんいかがでございますでしょうか。

○**北畠**　ボランティア活動の意義ということなんですけれど、僕はどうしてもボランティアセンターの学生スタッフとして活動をした期間がほとんどですので、学生ボランティアの意義ってい

う話になってきます。

ボランティアを求めてる側にとって、学生というのは、時間が比較的余裕があって。で、やっぱりボランティアも高齢化している、ボランティアをする側もされる側も、高齢化しているというところがあると思うんですが、若い人はやっぱりパワーがあるんですね。ただ行ってお話するだけのボランティアとかも行ったことがあるんですけれど、そこに行っただけでも、「若い人が来てくれて、パワーをもらってうれしい」っていうのを言ってくれたりという。ボランティアを求めてる側にとっては、学生ボランティアって行くだけでもメリットになることがあるということを学生時代にすごく感じていました。

で、ボランティアをやる側の学生にとっての意義っていうとちょっと難しいかもしれないですけど、いろいろとやっぱり得るものがあります。色々な自分の見識が広がったり、交友関係が増えたり、自分のスキルも磨かれます。学生時代を振り返って、学生ボランティア側でも運営する側でも、僕が一番いいなと思うのは、色々な人とすごくコミュニケーションを取れることですね。まあボランティアの種類にもよると思うんですけれど、学生時代、どうしても同年代の人とのやりとり、会話、コミュニケーションを取ることが多いと思うんですが、ボランティアって本当に色々な種類があって、0歳の子から、おじいちゃん、おばあちゃん、障がいを持った人、いろんな人とボランティアというなかで僕も関わりを持たせていただきました。

やっぱり社会に出ると、仕事上で色々な人とやりとりをしたり、コミュニケーションを取りますが同年代より、圧倒的に上の人や、違う年代の人のほうが多いんですね。学生時代は、なかなかそういうコミュニケーションを取る機会がないと思うんですよ。あっても、アルバイト先の先輩や、社員の人。そういったなかでいろんな人とコミュニケーションが取れないところを、ボランティアをやることで学生のうちにそういった機会を得られるというのは、学生ボランティアをするうえでいいところだなと思っています。

○赤尾　ありがとうございました。コミュニケーション能力とか、そういったところが大きな意義だということですね。それでは児島さん、お願いします。

○児島　このテーマをもらったときから、本当に自分のなかでいろいろ考えていて、はい。で、「1個、これや」と思って出たものがあるんです。私がボランティアをする理由は「人がいるから」って書いたんですよ。でも、よくよく考えると、これ最近、関大のポスターに「関大には、人がいる」ってあるんですよ。かぶってて、どうしようって思ったんですけど、でも、本当にボランティアっていうのは、人だなって。よくも悪くも人だなって思っていて。環境を汚すのも人がいるから、そうなってしまったら、だからボランティアがいるし。困っている人がいるからボランティアがいるんですよ。動物が「助けて」って絶対に言わないし。本当にボランティアをきっかけにして、この大学生活のなかでもう本当にたくさんの人に出会ったなって今でも思うし。

先ほど早瀬先生が「みんな変」っておっしゃってたんですけど、本当にボランティアに関わっている人は変な人が多くて、そうじゃない人ももちろんいるんで、気を悪くされたら申し訳ないんですけど、本当に変な人が多くて。

ボランティアセンターの活動をしてるなかで、団体のなかでもやっぱりあると思うんですよ。「こいつ、よう分からへんな」とか、何かKYと言われる人、いませんかね。分からないけど、

KY って言われる人ってたぶん、排除されると思うんですね、「この人は普通じゃない」というか。でも、ボランティアだと関係なくて、誰がどんな特性とか、どんな性格であろうと、誰もが誰かのためになれるというところが、すごいボランティアっていいなと思って。

ボランティアセンターのなかで私は一度、1 年次生のときにですね、学外でボランティアをしている人たちだけが集まっているフォーラムがあったんですけれど。そこで、どこの大学のどなたか忘れたんですけど、こういう感じのパネルディスカッションのときに「ここにいる人たちはみんな変人です」って言って、ホワイトボードみたいなんに出されて。すごく、私はそれを聞いたときに「何てことを言うんや」と思ったんですよ。すごく自分のなかでは意義あることをしているのに、変人って言われるんだと思ったんですけど。よくよく聞いてみると、「変人というのは、変わってる人じゃなくて、変えていく人だ」と言われたときに、「ああ、すごいそうやな」と思って、「ボランティアってみんな、【変えていく人】なんやな」っていうのが、私はずっと軸としてあって。だからこそ、変えていく人たちの集まりかなって。

ボランティアをするっていうのは、人がいるからで、その人っていうのはどんな人かって言われると、変わってる、変わってると言われる。まだボランティアをしたことがない人たちから見ると、「あの人たち、変わってるな」って思われる人たちの集まりかなと思うんですけど。まあ人がいる限り、私はボランティアに関わっていたいかなって思います。

○赤尾　ありがとうございました。児島さんからは「ボランティアは人なんだ」って、「みんな変わってるんだ」ということです。変人なんだけど、その「変人」っていうことは単に変わってるということじゃなくて、「変えていく人」なんだという非常に面白いお話だったと思います。

[10 年後の関西大学ボランティアセンターの理想像]

○早瀬　最低でも関西大学の残りの 3 キャンパスに当然ボランティアセンターが設置されていること。それから、できれば専任のボランティアコーディネーターが配置されてるという状況ですかね。そういうのはぜひとも目指して欲しいですね、はい。

○赤尾　貴重なご提言、ありがとうございます。

○加納　今でもね、これだけ、学生スタッフさんというのかな、運営ボランティアの方が多くいるので、ボランティアセンターの運営を、もっともっと学生主体で行って欲しいです。もちろん職員さん、本当に熱心でサポーティブやと思うんですけど、それはあくまで脇としてですね、主体は皆さんです。もっともっと伸び伸びといろんなことを企画して楽しませてください。

○赤尾　ありがとうございます。それでは北畠さん、お願いします。

○北畠　ボランティアに関する報道などいろいろ聞くなかで、これは賛否両論とか、いろんな考え方の方がいらっしゃると思うんですけれども、将来的に一番いいのは「ボランティア」という言葉がなくなること。みんなが自然にボランティアを意識せずにやるっていう社会が一番いいん

じゃないかっていうのをよく聞いて、僕もすごいそう思うんですね。ですので、ボランティアセンターがなくなってしまうのが、一番いいと思うんですよ。

ただ、それが10年後ってなるとなかなか難しいと思います。50年後、100年後もあるかもしれないし、なくなってるかもしれない。ただ、そのボランティアっていうのをみんなが意識せずにできるぐらい、そういう考え方が浸透できるような礎をこの10年間にもっともっとボランティアを広めるということで築いていってほしいと思います。

○赤尾　本当に極めて逆説的な話ですね。ボランティア活動が盛んになることによって、ボランティアセンターが必要とされなくなるような、そういうことになってくるということです。はい、それでは児島さん、お願いします。

○児島　また自分の話になるんですけど、2015年の8月に私は、ボランティアセンターから離れてました。その間に、学習支援だとか、子どもに関するボランティア団体さんとかにいろいろ見に行ったりしていました。そこで実際に話を聞いたんですけど、出てくる話ってだいたい「どうしたら学生がボランティアに来てくれるんだろう」とおっしゃっている方がすごく多くてですね。

何かそれを踏まえて、自分は9月になってボランティアセンターに戻ってきたんですが、やっぱり「ボランティアをしたい」と思ってる学生さんと出会うんですよ。何かそのときに「ああ、つながってないやん」と思って、何かボランティアセンターの重要性を肌で感じて、「何してるんやろう」と思ったんですね。

やっぱり思うのは、もうこの10年後、今までは結構体験ツアーだとか、そういうことを軸として、学生、関大生、自分たち学生やから「関大生にどうしよう」っていう、「関大生へ」という軸で取り組んできたと思うんですけど、10年後は大学生、関大生だけを見てては駄目だっていうふうに今思っています。だから、ボランティアセンターがどうあるべきかをボランティアセンターのなかで考えているっていう時期はもう、関西大学のボランティアセンターでは終わったかなと思っていて。

あともう1点、何か、最近どんどん「こうじゃないか」みたいなところで人って動いてるんだなってすごく思うんです、自分も含めて。何か「このボランティアってこうじゃないか」とか、「ボランティアをしたことがない学生さんってこうじゃないか」とか、「学生スタッフって、ボランティアセンターってこうじゃないか」といったように。でも、そうじゃなくて、どんどん向き合っていかないといけないなと思っていて。特にやっぱり学生スタッフって、学生ですし、立場が難しくて。正直よく思っていたのは、「学生らしくって何やねん」って思ってたんですよ。すごく抽象的だなと思っていて。さっきも、自分でもよく思っているんですけれど、「いいね、若い人たちは」みたいなことって、「若い人やから何があるんやろう」とかいろいろ思ってたんですけど。

やっぱり、目の前にいる人たちと向き合えることが、私たちのできることだなと思っていて。それが学生さんだったり、たぶん地域の方だったり、職員さんだったりするんですけど、このボ

ランティアセンターに関わる、構成してる１人１人が、「今、目の前にいる人が何を求めてるのか」とか、「困りごとは何なのか」とか、「こうじゃないか」ということで終わらすんじゃなくて、実際に向き合ってほしいし、向き合い続けてたら、それはやっぱり市民社会と言われるところにもつながるんじゃないかなと思って。だから、もっと10年後にボランティアセンターは人を大事にしてて、その出会いから生まれる何かに喜びを感じられる団体であってほしいなと、はい、思っています。

○赤尾　ありがとうございました。皆さまいかがでしたでしょうか。今日、限られた時間ではありますが、このパネルディスカッションのなかで、大きく４つのテーマについて４名の皆さんから話をいただきました。常日ごろ、私自身もボランティアセンターの研修や、そういったものに関わっておりますけども、本当に本学の学生さんたち、このボランティアセンターに関わってる学生の皆さんたちは、素晴らしい学生だなって私自身も思っております。

これからも、どうかこうした場というものを学内にまずは広げていただきたいと思います。そして、いずれ皆さんが今度は卒業された後、今日はOBの北畠さんがいらっしゃってますけども、卒業した後も、社会人になってからもですね、どうかこのボランティア活動を続けていただければというふうに思うわけです。

実は私は「生涯学習論」という研究テーマをもっています。私の専門の研究領域ですけども、OECDという経済協力開発機構の2000年代の調査によりますと、学歴が上がれば上がるほど、つまり大学の卒業者が多くなれば多くなるほど、逆にCSE（Civic and Social Engagement）、要するに「市民的、社会的関与」という、社会に対するボランティアを含めたそういった関与というものの率が低くなっていくという「参加のパラドックス」という現象が、実は指摘されています。

これは本当に意外な結果ではあるんですが、どうかここでのボランティア活動を関大だけのなかにとどめるんじゃなくて、先ほど加納先生や早瀬先生もおっしゃったように、それを今度は社会に出てからも、一市民としてですね、できるところからやっていくということを期待をしたいと思います。

司会の不手際で時間のほうがちょっと超過してしまいましたが、これをもちましてパネルディスカッションのほうを終了させていただきます。パネリストの皆さん、どうもありがとうございました。

環境保全活動及び連携事業

活動イメージ

1　ボランティア体験ツアー ～淀川掃除ボランティア～

2007 年 5 月 11 日に市民団体である、淀川掃除に学ぶ会の会長が来室され、同会が毎月第 1 日曜日に実施している淀川掃除のボランティア募集協力依頼を受けた。かねてからボランティア体験ツアーの実施を検討していた学生スタッフが 2007 年 8 月 4 日、ボランティアセンター職員と共に活動に参加し、これを一般学生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、以後継続して実施している。

参加者数は、2016 年 3 月には累計 5,900 名となった。関大生にとって「気軽にできるボランティア」として親しみのある活動として定着している。2011 年 1 月 21 日には、当センター学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定された。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川事務所が管理する一定区間で活動していること、且つ定期的に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けたこと、本事業が 2011 年度で 5 年目を迎えた記念として、この年から本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を開催しており、2015 年度は 2 月 28 日（日）に 5 回目を行った。当日は、約 600 名が参加し、社会人の方や併設校の生徒も参加し、普段かかわることのないたくさんの方とかかわる機会になり、参加者にとってよい経験となった。

2　【奈良県明日香村・関西大学地域連携事業】

飛鳥光の回廊

本学では「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、2006 年から 2010 年までの 5 年間、学生ボランティアが飛鳥川における河川敷の環境保全及び景観改善を目的としたボランティア活動に取り組んできた。

明日香村から発展的な事業として、明日香村が毎年開催してきた「飛鳥光の回廊」に、新たに学生ボランティアの協力を仰ぎたい旨、本学の社会連携センターを通じて依頼があり、2011 年度より本事業に参加している。

初年度は、当日のみ参加し、明日香村の方が予め考案したデザイン図を基に、灯篭を並べ点火する形であったが、2012 年度より、企画の段階から学生が本事業にかかわり、明日香村の方と一緒にデザイン図を考える形に変更し、よりやりがいや達成感が感じられる活動になった。

本年度は、8 月 29 日（土）・30 日（日）に開催され、一般学生 26 名、学生スタッフ 30 名がボランティアとして参加し

た。参加した学生たちは、「1日目は雨天のため点火できなかったが、自分たちが考えたデザインに沿って灯ろうを並べることが楽しかった」「来場者の方と話したり、デザインを褒めていただいてうれしかった」という声があり、学生にとっては有意義な時間を過ごせた様子であった。

明日香村景観事業〔飛鳥川一斉清掃・山桜植栽事業〕

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域であり、関西大学は、1972年の高松塚古墳の発掘に故網干名誉教授（明日香村名誉村民）など、明日香村と長きにわたり親密な関係を築いている。そして、2006年、あらためて地域連携に関する包括協定を結ぶに至った。

2006年、明日香村は村制50周年を迎えるに当たり、2006年11月から3年計画で明日香村村制50周年記念「花桃」記念植栽を地域連携事業の一環として、本学と連携を深め、学生ボランティアの依頼を受けすでに9年間がたち、明日香村の中心を流れる飛鳥川一斉清掃や、川沿いの草刈りなど数々の連携事業に参加してきた。2015年度は、3月6日（日）に飛鳥川一斉清掃が実施され、一般学生1名、学生スタッフ8名が参加し、地域との連携の一端を担うボランティア活動を行った。

3　【大阪府・高槻市・NPO法人芥川倶楽部との連携事業】

ミズヒマワリ駆除活動

2008年5月16日に、当センターが防災関連行事で連携している大阪府茨木土木事務所とNPO法人芥川倶楽部が来室され、高槻市や市民団体も共同して取り組んでいる芥川（高槻市）の「ミズヒマワリ駆除活動」のボランティア募集協力依頼を受けた。

特定外来生物であるミズヒマワリは、非常に繁殖力が強く、駆除活動を行わなければ川一面に繁殖して生態系を崩し、河川環境を破壊する。

学生スタッフが行っている「ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～」では淀川の環境を守り、淀川が流れ込む大阪湾の環境を守ることを目標としているが、淀川の支流である芥川の環境を守ることは淀川の環境を守ることにも繋がる。その想いから、学生スタッフは「ミズヒマワリ駆除活動」への参加を決め、以降継続して参加している。7年目を迎えた2015年度は12月5日（土）に実施され、一般学生4名、学生スタッフ5名が参加した。

アユの産卵場所の整備活動

2011 年度より、高槻市からの紹介で、NPO 法人芥川倶楽部の活動である「アユの産卵場所の整備活動」に学生スタッフが参加している。

本事業は、講師の方にアユの生態系や産卵場所の整備について詳しく説明していただき、環境問題について考えるよい機会となることから、学生スタッフ企画の「ボランティア体験ツアー」として実施している。10 月 17 日（土）当日は、胴長靴を履いて川に入り、スコップやトンボなどでアユが産卵する場所の整備を行い、一般学生 13 名、学生スタッフ 8 名がボランティアとして参加した。

4　【市民団体「新川姫蛍と花を守る会」との連携事業】

蛍の観賞会

2011 年 1 月に、学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席し、その際に高槻市市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、かかわることとなった。

当該団体は、高槻市の新川に生息する姫蛍の保護活動を中心に活動する団体であり、姫蛍は大阪府で絶滅危惧種に指定されていることから、毎年「蛍の観賞会」を開催し、観賞者に対して啓発ビラを配付し、環境問題について考えてもらう機会としている。

学生スタッフは一般学生に、ボランティアとして「蛍の観賞会」の運営スタッフとしてかかわることで環境問題について考えてもらいたいという想いから、学生スタッフ企画の「ボランティア体験ツアー」として、当該団体の活動に参加している。

5 月 23 日（土）当日は、ボランティアとして一般学生 23 名、学生スタッフ 10 名が集まり、姫蛍の啓発ビラ配りや、観賞会に彩りを添えるために灯ろうを並べた。灯ろうの配置については、事前に参加学生がデザインを考え「かがやけ☆ホタル」という文字に決定しデザイン図を基に設置した。

花植え活動

本活動は、市民団体「新川姫蛍と花を守る会」と庄所地域連合自治会が毎年実施しているものであり、この活動に 2012 年度からボランティアセンター学生スタッフが関大生に対して行う「ボランティア体験ツアー」として位置づけ、三者協力のもと実施している。11 月 15 日（日）当日は、一

般学生１名、学生スタッフ９名が参加し、学生が立案した花植えのデザイン図を基に、チューリップ・パンジー・ビオラ・スノーランドなどの球根や苗を地域の方と一緒に植えた。

参加学生からは、「地域の方と色々な話をしながら活動でき、非常に有意義な時間を過ごすことができた」「地域の方に来てくれてありがとうと言われたことがうれしかった」などの声もあり、ボランティア活動の良さを感じてもらうことができた。

5　エコキャップ運動

身近なことからできる環境保護・国際協力活動として、2008 年 7 月からエコキャップ運動を開始した。

エコキャップ運動は、NPO 法人「e-kotonet」などが中心となり行っている活動で、現在は一般社団法人イーコトキャップが回収を行っている。エコキャップ運動協賛企業がペットボトルキャップを回収し、リサイクルすることによって得た利益（キャップ 400 個で 10 円）を認定 NPO 法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付するというものである。

認定 NPO 法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付金は、20 円につき 1 人分のワクチンが支援先の子どもたちに送られる。

当センターは、2015 年度も引き続きエコキャップ運動を行った。

6　【大阪家庭裁判所との連携事業】

大阪家庭少年友の会学生ボランティアプログラム

大阪家庭裁判所において行われている、「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。本年度で 10 年目を迎えた。活動している学生たちは、大阪家庭少年友の会や家庭裁判所調査官の方々からの評判もよく、真摯に活動に取り組んでいる。ボランティアセンターとしても、学生にとって有意義なこの活動を今後も支援していきたい。

2006年度	9名
2007年度	16名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	14名
2011年度	19名
2012年度	16名
2013年度	17名
2014年度	15名
2015年度	15名

＜活動までの流れ＞

①ボランティアセンターが法学部（裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（社会福祉関連）、大学院心理学研究科などの教員への協力依頼。

②教員の推薦書を持参した学生を推薦。

③登録した学生への大阪家庭裁判所調査官等による研修。（活動中の悩みなども随時担当調査官に相談可）

④少年の都合に合わせ活動日を決定。

【大阪家庭少年友の会との行事】

5月20日	9月16日	2月26日
大阪家庭裁判所にて オリエンテーション （学生13名）	大阪府警察学校 （大阪府泉南郡） 施設見学（学生11名）	大阪家庭裁判所にて学生ボランティアとの懇談会 （学生８名）
参加者全員の自己紹介をした後、調査官より試験観察制度・少年審判・学習指導等についての説明を受け、裁判所庁内を見学した。	大阪府警察学校を訪問した。警察学校についての講話の後、施設見学、訓練の様子を見学した。	参加者全員が自己紹介をし、試験観察中の少年の学習指導を行った上での問題点等、調査官を交えて今後の学習指導方法について、意見交換を行った。

＜大阪家庭少年友の会より学生ボランティアへの感想＞

指導回数：24回（中３担当）
少年の学習意欲をよく引き出してくれました。兄的に接してもらったことがよかったと思っています。

指導回数：３回（中３担当）
少年と良好な関係を築いていただいたおかげで、少年も学習指導の後はにこやかな表情をしており、勉強嫌いな少年でもやる気になっていたと思います。

指導回数：６回（中３担当）
少年から「分からないことを尋ねたり、積極的に勉強に取り組むことができました。」との感想をもらいました。自分の力に気付き、前向きに進むきっかけとなったと思います。

指導回数：16回（中３担当）
明るく優しく接してもらって、少年は大変喜んでいました。少年が来ないことを心配してもらっていて、それが少年にも伝わっていたと思います。

指導回数：６回（中２担当）
少年は、学生ボランティアの指導は分かりやすいと言っており、学習指導で苦手な数学を少し理解できるようになったことで、やればできるという感覚を身につけられたのではないかと思います。個別に丁寧に優しく関わってもらったことも、うれしかったのではないかと思います。

指導回数：８回（中３担当）
勉強道具を準備できていないとか、時間を短くしてほしいというお願いにも、柔軟に対応してくださり、心強く感じていました。学習指導時の少年の様子を伝えていただいたことも、少年の状況を把握する上で有益でした。

指導回数：７回（中３担当）
最後まで親身にかかわっていただいた。回数、頻度、１回あたりの時間いずれも、こちら側の意向に沿って取り組んでいただいた。

指導回数：８回（中３担当）
少年は学習指導の延長を希望しました。少年は学習指導に積極的に取り組んでいました。

指導回数：６回（中２担当）
丁寧で分かりやすい指導や少年に合わせた声掛けをしていただいたおかげで、少年も意欲的に取り組むことができたと思います。毎回、少年の希望に合わせた内容で臨機応変に対応してくださったことにも感謝しています。

指導回数：４回（中３担当）
無口な少年でしたが、学生はなごやかに接しており、少年も「話しやすい。教え方も分かりやすい。」と述べていました。

指導回数：３回（中２担当）
最終回に、少年に対して、「少しでも勉強が楽しくなればいいなと思いながら指導しました。」と話しかけていただき、少年も、「分かりやすかったです。ありがとうございました。」と答えていたのが印象に残っています。

指導回数：５回（中３担当）
指導を担当した学生と少年との話し合いで、受験する高校の国語の過去問を一緒に解くことになりました。学生は、少年の能力が高いと評価し、楽しいひと時を過ごしていたようでした。

※文中で女子も「少年」と表記しているが、例えば少年法では「満20歳に満たない者」を指し、児童福祉法では「小学校就学から満18歳に達するまでの者」を指す。いずれも男子と女子を含んでいう。

堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務室）

住吉祭神輿渡御学生ボランティア

堺キャンパスのある堺市と関西大学は2008年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向いて児童生徒の運動促進を図る取り組みに協力したり、地域の子どもたちを対象にスポーツ企画を運営するなど、講義だけでは学べない経験を積み、大きく成長している。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与することもめざしている。2015年度は以下の事業にボランティアとして参加した。

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数	会場
住吉祭神輿渡御ボランティア2015	8/1（土）	13：00～20：00	住吉祭神輿渡御ボランティア	－	95名	大和川～住吉大社宿院頓宮
人間健康学部学生ボランティアネットワーク	4/17（金）	15：00～18：00	三国丘中学校サッカー部でのサポート	－	2名	三国丘中学校
	5/22（金）	15：30～18：00		－	2名	
	5/29（金）	15：30～18：00		－	2名	
	6/12（金）	15：30～18：00		－	2名	
	6/19（金）	15：30～18：00		－	2名	
	7/3（金）	15：30～18：00		－	2名	
	7/10（金）	13：30～16：00		－	2名	
	9/11（金）	15：00～18：00		－	2名	
	9/25（金）	15：30～18：00		－	2名	
	10/16（金）	13：30～16：00		－	2名	
	10/30（金）	15：30～18：00		－	2名	
	11/6（金）	15：30～18：00		－	2名	
	11/13（金）	15：30～18：00		－	1名	
	11/20（金）	15：30～17：00		－	2名	
	11/22（日）	13：00～16：00	車いすバスケットボール交流会（行事参加者数30名）	－	10名	関西大学堺キャンパス体育館アリーナ
平成27年度体力向上推進事業	6月～3月	—	「スクールサポーター」として市内小中学校にてレクレーション等を補助	－	5名	上野芝小学校
					4名	榎小学校
					5名	福田小学校
					5名	三原台小学校
					4名	三原台中学校
堺スクールサポーター	6月～3月		学校生活・教育活動のサポート	－	23名	堺市内小・中学校

堺市と関西大学との地域連携事業は、関西大学の地域貢献協力資金により運営されており、2010年度から開始され、2015年度で6年目を迎えている。

学生スタッフ育成プログラム

ボランティアセンターでは、「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念とする学生スタッフを置いている。

ボランティアセンター職員は、学生スタッフが主体的に企画・運営ができるようにさまざまな支援を行っている。また、学生スタッフは関大生にボランティア情報を紹介するために、研修及び活動調査の一環として「ボランティア体験隊」を実施している。

以下は、当センターが実施しているプログラムである。

1　ボランティアセンター学生スタッフガイダンス

学生スタッフになりたいという学生に対して、職員が50分程度のガイダンスを行った。内容としては、ボランティア活動支援グループの位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援が手厚いこと、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなくボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行った。

2　ボランティアリーダー養成講座

ボランティアセンター学生スタッフや学内ボランティア団体のメンバー向けの講座として実施した。各団体における活動をより活発に行うため、また本学でボランティアをより拡げるうえで必要なコミュニケーションスキルを学ぶ機会を与えることを目的に開催した。

日　　時	12月３日（木）
	18：00～20：00
場　　所	千里山キャンパス　第２学舎　C401教室
講　　師	シチズンシップ共育企画　代表　川中 大輔 氏
内　　容	活動引き継ぎ講座　～“想い”の伝え方、受け取り方～

3　ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

2015年度は学生スタッフの登録者数が増加したこともあり、従来と同様の講座内容では内容が不十分であると判断し、コミュニケーション力の養成や組織運営方法に係る内容を中心に養成講座を４回実施した。

第１回では、ボランティアコーディネートを行う上で欠かせない「傾聴」のテクニックについて学ぶ機会を設け、実践

形式で理解を深めた。

第２回では養成合宿前にボランティアセンターでの半年間の活動を振り返ると共にコミュニケーション力向上のためのワークに取組み、講師よりチームワークの大切さについて教授いただいた。

第３回は、バリアフリーマップの作成方法について学生相談・支援センターの藤原隆宏氏より教授いただいた。座学に加え、実際に学内を車いすで回りながら学んだため、深く理解することができた。

第４回は春の養成合宿直前に実施したもので、午前の部では広報活動の重要性について、午後は団体のアイデンティティ確立について考える機会を設けた。

日　　時	第１回　６月23日（火）
	プログラム①18：00～19：00、プログラム②19：00～20：00
場　　所	千里山キャンパス　第２学舎　C506教室
講　　師	プログラム①　学生相談室　相談員　鵜飼　柔美　氏 プログラム②　ボランティア活動支援グループ　村上　翔也
内　　容	傾聴講座 ～私の会話、相手はどう感じている？～ プログラム①　「傾聴に係るテクニックと実践」 プログラム②　「ボランティアコーディネート時の傾聴」

日　　時	第２回　９月７日（月）
	13：00～16：30
場　　所	千里山キャンパス　第１学舎　実験実習・語学系教室（2）
講　　師	シチズンシップ共育企画　代表　川中 大輔 氏
内　　容	「チームワークを円滑化するコミュニケーション」

日　　時	第３回　11月30日（月）
	18：00～19：30
場　　所	千里山キャンパス　第２学舎　C401教室
講　　師	学生相談・支援センター事務グループ　藤原　隆宏 氏
内　　容	バリアフリーマップを作ろう

日　　時	第４回　３月８日（火）
	午前の部10：00～12：30、午後の部13：30～16：00
場　　所	千里山キャンパス　第２学舎　C506教室
講　　師	ボランティア活動支援グループ　村上　翔也
内　　容	養成合宿（春）前の振り返り講座

4　ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（於：飛鳥文化研究所）

9月9日（水）～10日（木）に、奈良県の飛鳥文化研究所にて夏の養成合宿を実施した。ボランティア活動支援グループからは堀グループ長、村上、渡瀬が参加し、学生スタッフは41名が参加した。合宿では、「ボランティアセンター学生スタッフが守るべきルールを決めるという目的を掲げ、学生スタッフが普段から意識して守るべきことについて話し合った。ボランティアセンターでボランティアの魅力を発信するために、各自が意識しておかなければならないことについて、参加者全員で意見を出し合い理解を深めた。

春の養成合宿は、3月14日（月）～15日（火）に飛鳥文化研究所で実施した。ボランティア活動支援グループからは、堀グループ長、村上、渡瀬が参加し、学生スタッフは33名参加した。合宿では、「もし学生スタッフ制度を廃止し、事務職員だけのボランティアセンターになったら」という想定をし、学生スタッフが運営を行う意義の再確認や、自分たちの活動を客観的に捉えるワークに取り組んだ。これら複数のワークに取り組むことで、学生スタッフは自身の存在意義について熱く意見を交わした。

5　ボランティアセンター・学生スタッフ代表者及び班リーダーとのミーティング

学生スタッフへの日常的な支援として、月に1回程度職員と代表者がミーティングを行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。代表者を通して団体としてかかえている問題等について話し合うことで、学生スタッフが団体として成長していけるよう支援している。また、学生スタッフは7つの班に分かれて活動していることから、各班の間での情報共有の場として機能するように、職員を交えて班リーダーとのミーティングを行っている。

6　ボランティアセンター学生スタッフによる「ボランティア体験隊」

学生スタッフの目的である「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ために、当センター職員から「まず自分たちがさまざまなボランティア活動に携わることが重要である」と学生スタッフに働きかけたことを機に2010年から実施している。本企画は、①学生スタッフが自らの体験を基にボランティア体験ツアーなどのプログラムを企画・実施し、関大生にボランティアの楽しさ、やりがいを伝えること、②ボランティア募集団体代表者または担当者に話を伺い、関大生の活動状況を調査し、コーディネートにつなげたり、新しいプログラム企画の参考にすることを目的に行った。

7　ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会

活動報告会では、2015年度の学生スタッフの取り組みについて代表・副代表および各班リーダーが報告し、教職員との意見交換（学生スタッフに期待すること等）、および4年次生の4年間の活動をふりかえり、感想を話してもらった。

また、各班の発表内容を受けて赤尾副所長より講評があった。今年度は発表者に加え、共に活動に取り組んできた1・2年次生も出席して成果及び課題を共に再確認した。講評で頂戴したご意見については、学生スタッフ内で協議して次年度の活動に繋げることとした。

日　　時	3月16日（水）
	15：00～17：30
場　　所	千里山キャンパス　凜風館4階　ミーティングルーム2
出　席　者	赤尾副所長・綱木次長・堀グループ長 ボランティアセンター職員・学生スタッフ代表・副代表 各班リーダー・ボランティアセンター学生スタッフ

各種講座・講演会・フィールドワーク

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わる足掛かりとしての講座やコミュニケーション能力の向上のための講座など実施している。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ **講座日程表** ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

月	日	時　間	講　座　名
4	27	18：00〜19：30	ボランティア入門講座 〜ボランティアって何？〜
6	1	14：40〜16：10	ボランティアセミナー in 堺キャンパス　はじめよう！ボランティア
	8	14：40〜16：10	ボランティアセミナー in 高槻キャンパス　はじめよう！ボランティア
	17	14：40〜16：10	災害ボランティアガイダンス
	19	18：10〜19：40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜①
	26	18：10〜19：40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜②
7	1	18：00〜19：30	「レクリエーション講座」〜“遊び”の幅を広げるために〜
	3	18：10〜19：40	学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー 〜コミュニケーションスキルアップ講座〜③
11	21	14：40〜16：50	関西大学ボランティアセンター設立10周年記念プログラム ボランティアセンターの、これまでと、これから。
12	6	13：20〜16：40	動物愛護フィールドワーク

＊　＊　＊　＊　各種講座・講演会・フィールドワーク　＊　＊　＊　＊

1　ボランティア入門講座 ～ボランティアって何？～
ボランティアセミナー
～はじめよう！ボランティア～

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動のやりがいや楽しさを伝えたり、活動に対する不安や疑問を解消し、ボランティア活動への参加を促すこと、また、学生に本学ボランティアセンターを気軽に利用してもらうために、当センターで受けられるサービス等について紹介を行うことを目的に開催した。

当日は、学生スタッフ数名に初めてボランティアに参加したときの心境やその活動で得られた学び、また活動を通して成長できたことについて話してもらった。

	千里山キャンパス （ボランティア入門講座）	堺キャンパス （ボランティアセミナー）	高槻キャンパス （ボランティアセミナー）
日　　時	4月27日（月）	6月1日（月）	6月8日（月）
	18：00～19：30	14：40～16：10	14：40～16：10
場　　所	千里山キャンパス 凜風館　4階 ミーティングルーム2	堺キャンパス SA202教室	高槻キャンパス K棟地下1階　ギャラリー
講　　師	社会福祉法人　大阪ボランティア協会 梅田　純平　氏		社会福祉法人　大阪ボランティア協会 岡村 こず恵　氏
受講者数	20名	2名	9名

【受講者の声】

・新しいことを始めたいと思い講座に参加しました。思っていたよりボランティアに参加するハードルは高くないと思いました。（社会・1年次生）

・自分が思っていた以上にボランティアというものが世の中に溢れているんだなと思いました。私は普段からボランティア活動に携わってはいますが、まだまだ知らないボランティアが多くあり、もっと様々なものに積極的に参加していきたいと思いました。（総合情報・3年次生）

2　災害ボランティアガイダンス

日本各地で災害が頻発していることもあり、被災地域でのボランティア活動に興味を抱く学生、また参加することを検討している学生が多くいる。そのような学生が、身体的・精神的な安全確保の意識を高め、情報を十分に得たうえで意思決定を行えるようにすることを目的に災害ボランティアガイダンスを実施した。

東日本大震災後、災害を受けた地域は復興に向けて一歩ずつ進んでいるものの、まだまだ課題は多く残っている。「少しでも被災者の助けになりたい」という思いの学生も多いが、活動へ参加する前に充分な情報を得たうえで被災地のニーズに向き合う必要がある。そのため多角的な視点を持って、需要がある活動に取り組めるように、最新のボランティア活動状況や被災地へ行く際の心構え、復興に向けて「私たち」ができること、現地の方から見たボランティアの存在、など様々な視点に立ったガイダンス内容であったので、災害ボランティアを考える機会となった。

日　　時	6月17日（水）14：40～16：10
場　　所	千里山キャンパス　凜風館　4階　ミーティングルーム2
講　　師	社会福祉法人　大阪ボランティア協会　梅田　純平 氏 ※高槻・高槻ミューズ・堺キャンパス同時中継
受講者数	20名

【受講者の声】

・実際に災害ボランティアをした方の話を聞けたので、マスコミを通して知る現地の様子とはまた違ったことを感じられた。（文・１年次生）

・災害ボランティアは、力仕事が多かったりなどの固定概念がありましたが、また違った印象を持ちました。（社会・１年次生）

・災害ボランティアはたくさん準備が必要だと思いました。また、ボランティアに参加する場合は自分の意思だけでなく、相手側の求めるものを考えることが重要だと感じました。（環境都市工・３年次生）

3　学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー ～コミュニケーションスキルアップ講座～（全３回）

学生生活を充実させるためにかかせないコミュニケーション力。コミュニケーションのコツさえ掴めば、誰でもコミュニケーション力をアップさせることができる。本講座では、ワークをしながら聴き上手になる、話し上手になる、コミュニケーション力アップの３つのコツを楽しく学んでもらう機会を提供することを目的として開講した。本講座を通して学びとったことを学生生活やボランティア活動で活かし、充実した学生生活を過ごしてほしい。

日　　時	6月19日～7月3日（毎週金曜日・全3回） 18：10～19：40
場　　所	千里山キャンパス　第2学舎　C505教室
講　　師	大阪心のサポートセンター　代表　宮本　由起代　氏
受講者数	第1回　6月19日（金）　22名 第2回　6月26日（金）　17名 第3回　7月3日（金）　21名 延べ60名

【受講者の声】

・「聞く」と「聴く」の違いが分かりました。そして、相手のことを知りたいと思う気持ちが大切だと思いました。心を開いていけるよう「開いた質問」をしようと思いました。
（文・1年次生）

・相手にこうしてほしいという事がある場合は、しっかり自分の気持ちを伝え、提案する話し方がいいと分かり勉強になりました。（経済・3年次生）

・隠れた感情について考えることで感情のコントロールができるということを学びました。
（経済・4年次生）

4　ボランティアセンター・テーマ別講座
「レクリエーション講座」～“遊び”の幅を広げるために～

本講座は、子どもと多くかかわる機会がある学生や、大勢の人を前に様々な催しを行う機会がある学生が大いに利用できる「レクリエーション」について実践を交えながら学ぶことを目的として開催した。

特にボランティア活動は子どもと関わる機会が多いが、突然レクリエーションを行いたいと思っても、知っているレクリエーションの選択肢が少なければ対応は困難である。本講座の受講生は“遊び”の選択肢を増やすことを目標にし、真剣かつ楽しみながら講座に参加していた。

また、レクリエーションを行うにあたって、参加者の全員が同じ身体条件で参加できるとは限らないため、「誰でもできること」が重要であるとのことであった。体を動かし汗をかきながらコミュニケーションをとる講座内容であったため、初対面の参加者同士が講座終盤には笑顔で仲良く手を取りあっていたのが印象的であった。

日　　時	7月1日（水）18：00～19：30
場　　所	千里山キャンパス　第2学舎　C506教室
講　　師	関西大学　人間健康学部　涌井 忠昭　教授
受講者数	24名

【受講者の声】

・様々なレクリエーションを実際に楽しみながら学ぶことができ、とてもよかったです。レクリエーションをする際、「全員ができるのだ」と思うのではなく、障がい者の立場に立って考えることも大切であると改めて思いました。（総合情報・3年次生）

・大学生でも子どもでも、高齢者でも楽しむことができるものだったので、様々な場で活用させてもらおうと思いました。（人間健康・４年次生）

5　ボランティアセンターフィールドワークプログラム
動物愛護フィールドワーク ～動物愛護について学ぼう～

動物愛護に関するボランティアを探しにボランティアセンターへ来室する学生は多く、動物愛護に興味を持っている学生は多いが、「動物の命」がさらされている現状を知らない学生も多い。そこで、本フィールドワークへの参加を通して「動物と命」の現状を少しでも知ってもらい今後のボランティア参加へつなげてもらうことを目的とし、フィールドワークを実施した。参加者は施設の方のお話を真剣に聞き、人と動物の共存の在り方について真剣に考えていた。

日　　時	12月６日（日）13：20～16：40
場　　所	公益財団法人 日本アニマルトラスト（大阪府豊能郡能勢町）
参加者数	12名

【参加者の声】

・将来、動物愛護施設で働きたいと思っているので参加した。動物愛護施設がどういうことをしているのか、知ることができてよかったです。

・先日捨て猫を保護したことをきっかけに動物愛護に興味を持ち、今回参加しました。動物愛護施設へボランティアに行くことは今すぐにはできませんが、募金活動など身近にできることから始めたいと思いました。

注目 各種講座のポスター

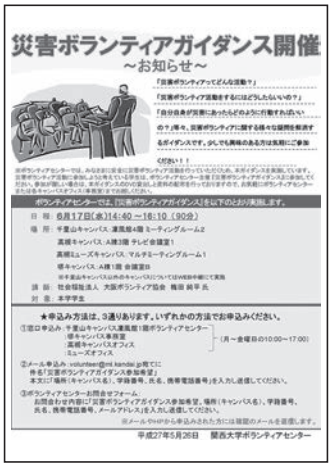
講座のポスターは、具体的な内容や写真などを入れて学生が興味を引くデザインに工夫しています。

ボランティア入門講座
～ボランティアって何?～

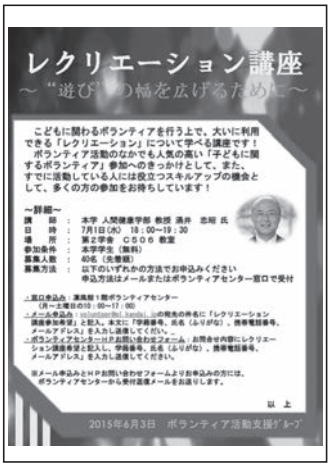
ボランティアセミナー in 堺キャンパス
～はじめよう!ボランティア～

ボランティアセミナー in 高槻キャンパス
～はじめよう!ボランティア～

学生生活で役立つコミュニケーション
スキルセミナー
～コミュニケーションスキルアップ講座～



災害ボランティアガイダンス



「レクリエーション講座」
～“遊び”の幅を広げるために～

関西大学ボランティアセンター設立
10周年記念プログラム
ボランティアセンターの、これまでと、これから。

動物愛護フィールドワーク
～動物愛護について学ぼう～

ボランティアセンター学生スタッフ活動記録

まもるくん

ボランティアセンター学生スタッフとは…

「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」ことを理念に活動している団体です。また、学生スタッフは、関大生にボランティアを広めること以外に、ボランティア活動への参加や、学外で行われるボランティアセミナーなどにも積極的に参加しています。2015年度においては、新たに21名のスタッフが加入し、総勢80名になり、2015年度も充実した活動となりました。
ここからは、そんな彼ら彼女らの活動を感想も含めて紹介します。

定例の活動

学生の中には「ボランティアに関心があるけれど一歩踏み出せない」という学生がおり、学生スタッフはそのような学生を後押しできるような、さまざまな取り組みを行っている。2015 年度においては、定例の活動として 4 つの取り組みを行った。

1　学生スタッフによるボランティア情報紹介

当センターでは、職員がボランティアコーディネートを行うだけではなく、学生スタッフも同じ関大生にボランティア情報紹介を行っている。学生スタッフがボランティア情報紹介をする時間帯を設け、ボランティアに関心のある関大生の想いを聞き、その人に合ったボランティアを見つけるお手伝いをしている。

2　関大クリーン大作戦 ～図書館の本の落書き消し～

千里山キャンパス総合図書館にて、本の落書き消しボランティア活動を実施している。この活動は、一番長く継続している活動であり、関大生に学内で気軽に参加できるボランティアとして広まっている。落書きを消しゴムで消すだけではなく、ポスターや落書きを消すことができなかった本に貼る啓発シールを作成し、落書き防止のための活動も行っている。

このボランティア活動に参加したことがきっかけとなり、次のボランティア活動につなげてもらうことも目的とし実施している。

場所　千里山キャンパス　総合図書館 3 階　グループ閲覧室

内容　図書館の蔵書の落書きを消し、特に汚れがひどい本には落書き防止の啓発シールを貼る。

学生スタッフの声

本の落書きを消すという単純作業だが、参加者みんなで会話しながら和やかな雰囲気で楽しく活動することができた。落書きされた本がこんなにもあるということを参加者に知ってもらえたこともよかったと思う。（社会・１年次生）

3　関大クリーン大作戦 ～大学周辺の清掃活動～

関大生にボランティアの魅力を感じてもらうために、身近な清掃ボランティアを体験してもらうこと、また、学生スタッフと交流することで、ボランティアセンターを身近に感じてもらうことを目的として実施した。

場所　千里山キャンパス及び関大前通り

内容　ゴミ拾い

4　ボランティア体験ツアー ～淀川掃除ボランティア～

淀川のゴミを拾うことで、大阪湾へゴミが流れ込むことを防ぎ、たくさんの人が淀川を気持ちよく利用できるようにする、環境と景観を保護する活動。単発のボランティアをボランティア体験ツアーとして実施することで、ボランティアに参加することへの敷居を低くしている。本活動は、毎年たくさんの関大生が参加し、関大生にとって「気軽にできるボランティア」として親しまれ、2016 年 3 月で累計参加者が **5,900 名**を突破した。

日時　第 1 日曜日　9：00 ～ 11：00

場所　淀川河川公園　河川敷

内容　淀川河川敷のゴミ拾い

参加者　延べ 823 名（ボランティアセンター学生スタッフを含む）

累計参加者　5,914 名

参加者の声

環境について興味があり、自分の目で環境問題の課題を見つけるために、このボランティアに参加した。活動はすごくやりがいがあった。もう少し活動時間が長くてもいいと感じた。
（環境都市工・１年次生）

友人に誘われて参加しました。日頃、淀川に散歩によく来ているので、ごみを拾ったり、川をきれいにすることに興味があります。次回も参加したいと思いました。
（社会・１年次生）

活動風景

新入生歓迎行事

キッズミュージアム

飛鳥光の回廊

みんなで守ろう蛍の光

4月～8月

2015年度ボランティアセンター学生スタッフ実施事業（年間表）

	全体	大学班	河川班	高槻班	吹田班	明日香班	広報部	ボラリー	その他
4月	・新入生歓迎行事 千里山・高槻（4/2～4/4）	・関大クリーン大作戦～大学周辺の清掃活動～(4/11) ・関大クリーン大作戦～大学周辺の清掃活動～(4/19)※雨天のため中止					・ボランティアカレンダー作成	・Volury（vol.26）発行（4/1）	
5月		・関大クリーン大作戦～清掃活動と図書館の本の落書き消し～（5/30）	・ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～（5/10）	・ボランティア体験ツアー～みんなで守ろう！蛍の光ボランティア～（5/23）			・ボランティアカレンダー作成		・ボランティアフェスティバル2015（5/14・15） ・法政大学との富士山外来植物駆除活動（5/17）
6月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座 傾聴講座（6/23）	・関大クリーン大作戦～図書館の本の落書き消し～（6/23）	・ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～（6/14）				・ボランティアカレンダー作成		
7月	・平成OSAKA天の川伝説2015ボランティア（7/7）							・Volury（vol.27）発行（7/1）	
8月	・ボランティア体験ツアー～子どもと学ぼう国際理解＠キッズミュージアム～（8/4・5）		・ボランティア体験ツアー 第27回なにわ淀川花火大会翌日清掃ボランティア（8/9）			・ボランティア体験ツアー～飛鳥光の回廊ボランティア～（8/29・30）			
9月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座（9/7） ・ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（9/9・10）				・ボランティア体験ツアー～小学生に防災について楽しく学んでもらおう！学童ふれあいボランティア～(9/16)				・大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー（9/8・9）
10月	・頑張る人を学生スタッフと応援しよう！！～第5回大阪マラソン給水ボランティア～（10/25）	・関大クリーン大作戦～大学周辺の清掃活動～（10/11）	・ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～（10/18）	・関大クリーン大作戦in高槻（10/3） ・ボランティア体験ツアー～アユの産卵場を整備しよう！～（10/17）			・ボランティアカレンダー作成 ・大阪マラソン給水ボランティア事前説明会における学生スタッフによるボランティア紹介（10/4）		・法政大学との富士山清掃活動（10/25）
11月	・ボランティア体験ツアー2015学園祭「めざせ！エコマスター～ゴミの山から宝を見つけよう～」（11/1・3） ・ボランティアセンター設立10周年企画写真展（11/16～21） ・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座（11/30）		・ボランティア体験ツアー～芥川掃除～（11/29）	・ボランティア体験ツアー花植えボランティアin高槻～新川を花で染めよう～（11/15）	・ボランティア体験ツアー～千里にみんなの光を灯そう！千里キャンドルロード2015ボランティア～(11/7)		・ボランティアカレンダー作成		
12月	・ボランティアリーダー養成講座(12/3) ・ボランティア体験ツアーキャンパスママまつりin関西大学（12/13）	・関大クリーン大作戦～図書館の本の落書き消し～（12/8）		・ボランティア体験ツアー～ミズヒマワリ駆除作戦～（12/5）			・ボランティアカレンダー作成	・Volury（vol.28）発行(12/1)	
1月									
2月			・第五回「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」（2/28）						
3月	・ボランティアセンター学生スタッフ養成講座（3/8） ・ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（3/14・15） ・ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会（3/16）					・ボランティア体験ツアー～景観ボランティアin明日香村～（3/6）			・第4回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会（3/4～6）

企画・キャンペーン活動

定例の活動とは別に、学内での企画や様々な社会問題の啓発活動を行っている。

1　新入生歓迎行事

新入生歓迎オリエンテーション期間に、新入生に学生スタッフの活動を紹介し、ボランティアや学生スタッフに関心を持ってもらうために実施した。

日時　4月2日（木）～4日（土）
9：00～17：00

場所　千里山キャンパス　凜風館1階
学生ラウンジ前
高槻キャンパス　B棟2階 TB202

内容　ブースに来てくれた学生に、ボランティア活動や学生スタッフの活動紹介、ボランティア情報の紹介を行う。また、大学内で、ボランティアセンター発行のクリアファイル、機関誌「Volury」などを配布する。

2　ボランティアフェスティバル2015

本イベントは、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであり、2015年度で8回目を迎えた。学生スタッフや学内ボランティア団体メンバーは、一人でも多くの学生に自分たちの活動を知ってもらうために、工夫を凝らした。

日時　5月14日（木）・15日（金）
10：40～16：10

場所　千里山キャンパス　凜風館1階　ラーニングエリア、ステージ

参加団体　児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」
児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」
文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

連携事業

3　ボランティア体験ツアー ～みんなで守ろう!蛍の光ボランティア～

「ボランティアに参加したいけれど何をしたらよいか分からない」という学生のために、気軽に参加できるよう学生スタッフがボランティア体験ツアーとして、姫蛍の観賞会の運営ボランティアを企画した。また、絶滅危惧種に指定されている姫蛍の観賞を通じて、参加者が地域活性化や環境保護について考える機会を作ることを目的とした。

【連携先】市民団体「新川姫蛍と花を守る会」

日時　5 月 23 日（土）16：00 ～ 21：00

場所　大阪府高槻市新川沿い

内容　灯ろう作り・配置・点火、姫蛍に関する啓発ビラの配布、姫蛍の観賞

参加者　一般学生 23 名、学生スタッフ 10 名

参加者の声

活動場所が地元だったので、地元の環境を守りたいと思い参加しました。地域の方とかかわることができてよかったです。蛍も見ることができ、とてもきれいでした。

4　平成OSAKA天の川伝説2015ボランティア

七夕の夜、人々の願いごとを託した LED を光源とする光の玉「いのり星」を、天の川伝説にゆかりの深い天満橋（大川）に放流し、川面に天の川をつくりだすイベント「平成 OSAKA 天の川伝説 2015」に本学学生もボランティアとして参加した。本イベントは、市域の約 10% を占める河川を活かそうと、水都大阪の都市景観づくりを目的とし実施されている。本学学生は「いのり星」放流のサポートを行った。

日時　7 月 7 日（火）18：30 ～ 21：00

場所　大阪市中央区 大川・天満橋～北浜周辺

内容　「いのり星」（LED を光源とする光の玉）放流のサポート

参加者　一般学生 31 名、学生スタッフ 12 名

5　ボランティア体験ツアー ～子どもと学ぼう国際理解@キッズミュージアム～

本学博物館主催のイベント「キッズミュージアム」に参加した。一般学生・学生スタッフに子どもや保護者との関わりのなかで、コミュニケーション能力や臨機応変な対応力を身に付けることが期待でき、子どもと接する楽しさや、今日の国際化の中で国際理解の大切さを知ってもらうことができる。また、子どもたちに遊びを通して海外について知ってもらい、国際理解を深めてもらうことを目的とし実施した。

日時　8 月 4 日（火）9：00 ～ 16：30
8 月 5 日（水）9：00 ～ 16：30

場所　千里山キャンパス　関西大学博物館

内容　海外のアクセサリー作り、国旗作り、パズルを通して海外について知ってもらい、国際理解を深めてもらう。

参加者　一般学生 11 名、学生スタッフ 40 名

6　第27回 なにわ淀川花火大会 当日･翌日ボランティア

第 27 回なにわ淀川花火大会の当日・翌日ボランティアに参加した。花火大会当日は運営ボランティアに参加し、翌日は淀川河川敷の清掃を行った。

【花火大会当日ボランティア】

日時　8 月 8 日（土）15：00 ～ 22：00

場所　十三・大淀地域 河川敷

内容　花火大会の運営、資料の配付、迷子係

参加者　学生スタッフ 11 名

【翌日ボランティア】

日時　8 月 9 日（日）8：00 ～ 10：30

場所　十三・大淀地域 河川敷

内容　清掃活動

参加者　一般学生 13 名、学生スタッフ 8 名

連携事業

7　ボランティア体験ツアー ～飛鳥光の回廊ボランティア～

明日香村では毎年、「飛鳥光の回廊」にて、石舞台をはじめ、伝板蓋宮跡や水落遺跡、飛鳥寺など、明日香村内の代表的な史跡、寺社、施設をライトアップし、20,000 本を超えるろうそくの明かりで彩るイベントを開催している。2015 年度もその事業に、本学もボランティアとして参加した。

【連携先】奈良県明日香村
関西大学地域連携センター

日時　8 月 29 日（土）11：00 ～ 20：00
8 月 30 日（日）13：00 ～ 20：00

場所　奈良県明日香村石舞台古墳

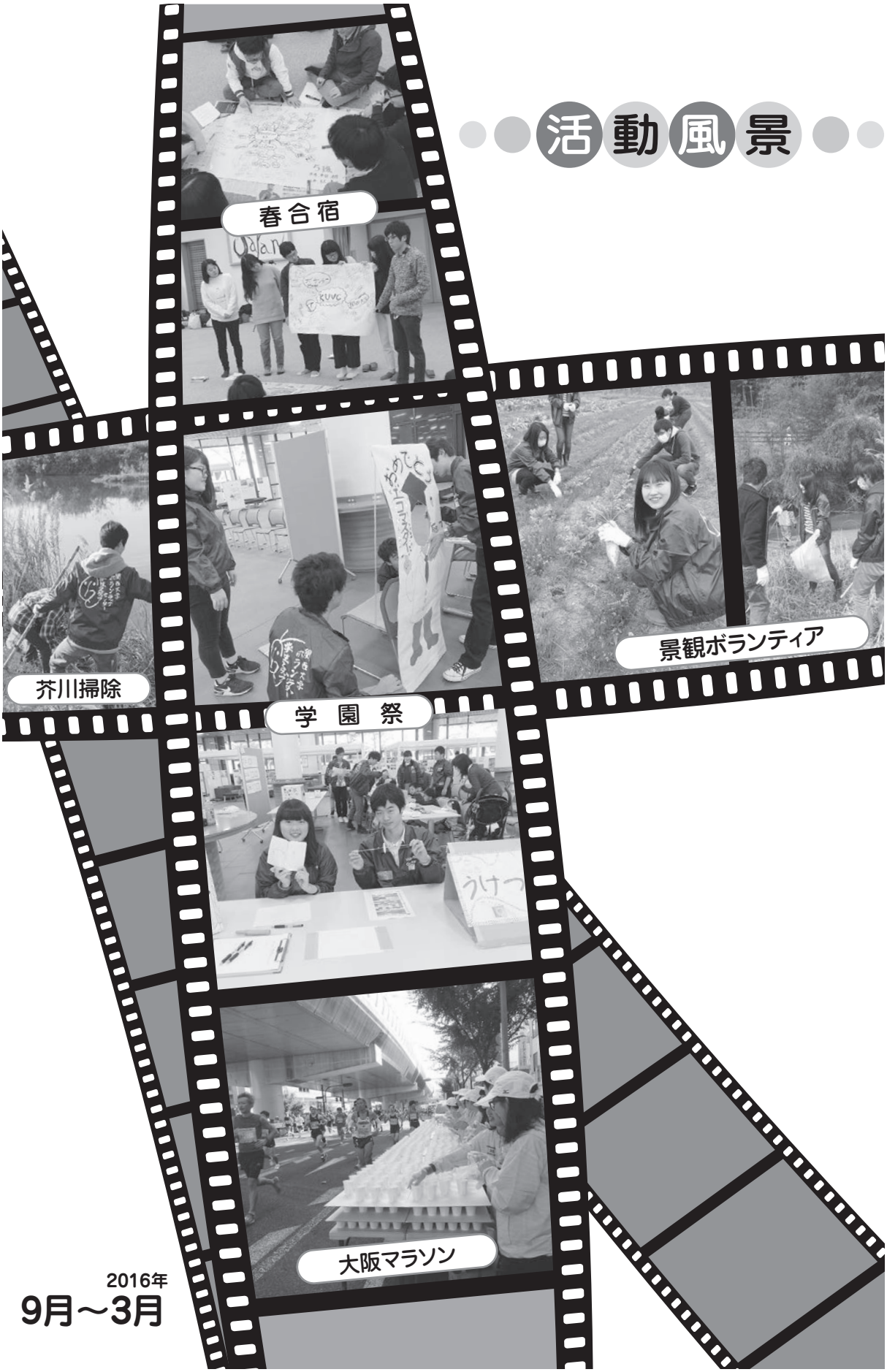
内容　灯ろうのデザインを考える
（学生スタッフと一般学生の希望者）
灯ろうを並べ、点火する
明日香村散策
※雨天のため講話に変更

参加者　29 日（土）一般学生 19 名、
学生スタッフ 21 名
30 日（日）一般学生 7 名、
学生スタッフ 9 名

参加者の声

1 日目は雨のため途中で中止になった。2 日目は少し雨が降っていたけれど、和気あいあいと活動できてよかった。散策が雨のため中止になったが、その代わりに飛鳥についてのお話を聞くことができたのは、とても面白くためになった。（社会・3 年次生）

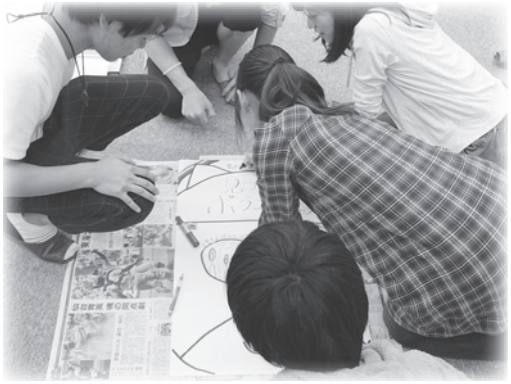
活動風景



2016年
9月～3月

8　学生スタッフ養成合宿（夏）

ボランティアセンター学生スタッフはみんなが協力し多彩な活動を行っている。今後さらに活動を充実させるために、今回の合宿では「新しい個性を見つけ出す」「団体としての結束力を高める」ことを目標に掲げて実施した。



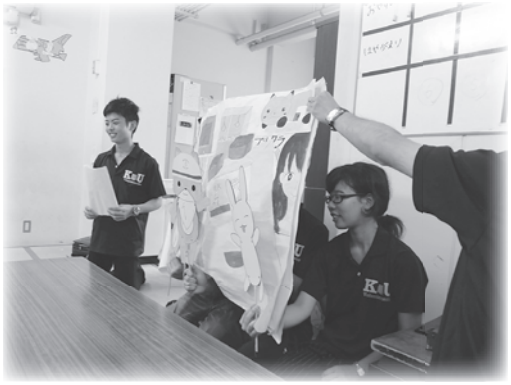
日程　9月9日（水）～10日（木）

場所　飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者　参加者：44名（堀グループ長・村上・渡瀬、学生スタッフ 41名）

9　ボランティア体験ツアー
～小学生に防災について楽しく学んでもらおう!学童ふれあいボランティア～

豊津第一小学校の学童の先生より、昨年度実施した防災に係る出し物を、学童への防災教育の一環として今年度も行ってほしいと依頼を受け、実施した。



日時　9月16日（水）13：40～16：30

場所　大阪府吹田市 豊津第一小学校

内容　防災に関する人形劇、クイズ、カルタ、新聞紙で防災グッズ作り

参加者　一般学生２名、学生スタッフ13名

学生スタッフの声

子どもたちが非常に元気で最初はとまどいましたが、時間が経つとともに落ち着いてきて楽しんで活動できました。子どもや学童の先生から「楽しかった」という言葉をいただき、うれしかったし、やりがいを感じました。（社会・２年次生）

10　関大クリーン大作戦 in 高槻

昨年度より高槻キャンパスに学生スタッフが誕生したことにより、学生スタッフの活動の幅が広がった。今回は高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパスの学生が参加しやすいように、関大クリーン大作戦を高槻エリアにて実施した。

日時　10 月 3 日（土）10：00 ～ 12：00

場所　阪急高槻市駅～ＪＲ高槻駅周辺

内容　清掃活動

参加者　一般学生 7 名、学生スタッフ 12 名

参加者の声

思ったよりゴミが少なかったけれど、清掃しながら色んな人と話せて楽しかったです。次回はもう少し範囲を広げて活動してみたいと思いました。　（政策創造・3 年次生）

連携事業

11　ボランティア体験ツアー ～アユの産卵場を整備しよう!～

大阪府高槻市の NPO 法人芥川倶楽部の活動である「アユの産卵場の整備活動」に参加した。アユは秋に産卵するため、アユが産卵しやすいよう川底を耕し、産卵場を整備した。また、参加者には高槻市の芥川に天然のアユが生息することを知ってもらうとともに、自然とふれあうことで環境保全について考えてもらうきっかけとする。

【連携先】大阪府、高槻市、NPO法人芥川倶楽部

日時　10 月 17 日（土）10：00 ～ 12：00

場所　大阪府高槻市 芥川 城西橋上手右岸側

内容　川底を耕してアユの産卵場を整備する

参加者　一般学生 13 名、学生スタッフ 8 名

参加者の声

釣りが好きなことと、一度ボランティア活動をしてみたかったので参加しました。普段、自然とふれあうことがないので、自然とふれあうことができて非常によかったです。またこのような機会があれば参加したいです。

12　頑張る人を学生スタッフと応援しよう!!
～第5回大阪マラソン給水ボランティア～

本学が協賛する「第５回大阪マラソン」の給水ボランティアにおいて、学生スタッフとともに活動する一般学生を募り、一緒に活動することで、ボランティアの楽しさ、やりがい、スポーツの魅力を感じてもらう。

日時　10 月 25 日（日）7：30 ～ 12：00

場所　大阪マラソン第１給水所
（5 km地点・千日前東ブロック）

内容　給水所でのランナーへの給水サービス活動

参加人数　一般学生 69 名、学生スタッフ 29 名

学生スタッフの声

参加者同士楽しく会話しながら活動でき、給水しながら応援もしっかりすることができてよかった。活動後に、ボランティア参加者みんなから「楽しかった」という声を聞くことができてよかった。　（社会・１年次生）

今回参加してよかったことは、たくさんのランナーの方とふれあえたことで、人と関わるということの楽しさを知れたことです。応援していると、ランナーの方が手を振ってくださったり、「ありがとう」と言っていただいたり、ボランティアの私が逆に元気をもらいました。今回の反省点は、もっと事前にコップの並べ方などを予習すべきだった点です。今回の反省点は来年度に活かしたいと思います。　（文・１年次生）

13　ボランティア体験ツアー2015学園祭
「めざせ!エコマスター ～ゴミの山から宝を見つけよう～ 」

大学生を対象としたブースが多く出される学園祭で、子どもが楽しめる場所を提供できればと考え、学生スタッフが企画・実施した。また、近年、環境問題やゴミの分別についての関心が高まっていることから、子どもに環境やリサイクルについて遊んで学んでもらえるブースを出した。一般学生には、身近な場所でのボランティア活動のため、気軽に参加してもらえるようボランティア体験ツアーとして実施した。

目的　ゴミに関する人形劇、リサイクル工作、エコマーク神経衰弱、すごろくを用いて子どもたちに環境問題やゴミの分別について知ってもらう。

日時　11 月 1 日（日）、11 月 3 日（火）10：00 ～ 16：00

場所　千里山キャンパス　凜風館 1 階　学生ラウンジ

参加者　11 月 1 日（日）一般学生 12 名、学生スタッフ 46 名
11 月 3 日（火）一般学生　8 名、学生スタッフ 49 名

企画内容

①人形劇

内容　環境問題、ゴミの分別をテーマとしたストーリーをもとに人形劇を行う。

②工作

内容　紙パックのビュンビュンごま作り、本作りを行う。また、牛乳パックで作る観覧車の展示やダンボールで作った空気砲で遊ぶブースを設けた。

③エコマーク神経衰弱

内容　エコマークが描かれた大きなカードを使って神経衰弱を行い、エコマークについて学んでもらう。

④すごろく

内容　すごろくをしながら、ゴミの分別の大切さについて学んでもらう。

14　ボランティア体験ツアー
～千里にみんなの光を灯そう! 千里キャンドルロード2015ボランティア～

地域活性化イベントである千里キャンドルロードに参加することにより、千里ニュータウンという地域について知ってもらう。また、キャンドル配置デザインから学生が関わることにより、１から作り上げるというやりがいを感じてもらい、ボランティアの楽しさを感じてもらうことや次のボランティア参加につなげることを目的とする。

日時　11 月 7 日（土）11：00 ～ 21：00

場所　大阪府豊中市 千里中央公園

内容　キャンドルの準備（色付け、デザイン）、設置、点火、片付け

参加者　一般学生 4 名、学生スタッフ 18 名

学生スタッフの声

私が今まで体験したボランティアの中でも特に地域の方との関わりを感じられた。この千里キャンドルロードのボランティアに参加しなければ出会えない人達に会え、改めてボランティアが人と人をつなぐ機会であると実感した。全てのキャンドルに火が灯った時、１日頑張ってよかったとやりがいを感じた。（社会・２年次生）

連携事業

15　ボランティア体験ツアー 花植えボランティア in 高槻
～新川を花で染めよう～

2011 年 1 月に学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席し、その際に高槻市市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、当該団体と庄所地域連合自治会が共同で実施している花植え活動に本学が参加することになった。

また、花植え活動は関大生にも参加しやすいということから「ボランティア体験ツアー」という位置づけで実施した。

【連携先】市民団体 新川姫蛍と花を守る会
庄所地域連合自治会

日時　11 月 15 日（日）9：00 ～ 12：00

場所　大阪府高槻市庄所公園、高槻市新川周辺

内容　花植え活動、焼き芋大会

参加者　一般学生 1 名、学生スタッフ 9 名

連携事業

16　ボランティア体験ツアー ～芥川掃除～

これまで学生スタッフは淀川掃除を企画してきたが、淀川掃除において高槻キャンパスからの参加者が増加傾向にあることを受け、高槻キャンパスにもさらにボランティアを広めたいと考え、芥川掃除を企画・実施した。活動は市民団体の「新川姫蛍と花を守る会」と一緒に行った。

【連携先】市民団体 新川姫蛍と花を守る会

日時　11 月 29 日（日）9：30 ～ 11：00

場所　大阪府高槻市 芥川城西橋周辺

内容　芥川城西橋周辺の清掃活動

参加者　一般学生 2 名、学生スタッフ 6 名

学生スタッフの声

たくさんのゴミを拾い、芥川周辺がきれいになっていくことが目で見てわかりとてもやりがいを感じた。清掃中、川のすぐ近くのゴミを取ったりする場面が多かったので長靴が必要だと思った。また、清掃する範囲が広いので、もっと大人数で参加できると思った。

（環境都市工・1 年次生）

連携事業

17　ボランティア体験ツアー ～ミズヒマワリ駆除作戦～

ミズヒマワリは外来植物の一種で繁殖力が非常に強く、川の生態系に大きな影響を及ぼす植物であり、本来の川を保護するためには継続的に除去を行う必要がある。そのために、2008 年から学生スタッフは連携先とともに駆除活動を行っている。

【連携先】大阪府、高槻市、NPO 法人芥川倶楽部

日時　12 月 5 日（土）10:00 ～ 12:00

場所　大阪府高槻市　芥川合流点付近、女瀬川右岸付近

内容　胴長靴を履いて、ミズヒマワリ駆除活動を行う。

参加者　一般学生 4 名、学生スタッフ 5 名

学生スタッフの声

川に入って活動することはとても楽しかったし、また、たくさんのミズヒマワリを駆除することができて非常にやりがいを感じられた。最終的に 870kg のミズヒマワリを駆除することができた。しかし、ミズヒマワリは非常に繁殖力が強いので駆除活動をしなければまたすぐに増えてしまう。毎年の継続的な活動がとても大切なのだと感じた。　（文・1 年次生）

18　ボランティア体験ツアー キャンパスママまつり in 関西大学

NPO 法人関西大学カイザーズクラブおよび NPO 法人チルドリン主催の「キャンパスママまつり in 関西大学」に学生スタッフも参加した。「ママまつり」は、ママの「好き」「得意」「経験」を集約し、全国展開しているイベントである。ボランティアセンター学生スタッフは、①道案内ボランティアとキャンパスツアー、②サイエンスセミナーの補助を行った。また、参加学生に地域との交流の場を創出することも目的とし、ボランティア体験ツアーとして実施した。

日時　12 月 13 日（日）10：00 ～ 16：00

場所　関西大学 千里山キャンパス

内容　道案内ボランティアとキャンパスツアー
サイエンスセミナーの補助

参加者　一般学生 1 名、学生スタッフ 24 名

19　淀川寛平マラソン2016

吉本興業創業 100 周年と産経新聞創刊 80 周年を機に誕生した「淀川寛平マラソン」に本学学生もボランティアとして参加した。本大会は「東日本大震災被災地復興支援」をメインテーマに掲げ、誰でも楽しく参加できるチャリティー大会として、淀川河川公園と淀川河川敷を舞台に開催されている。

日時　2 月 14 日（日）9：30 ～ 16：30

場所　淀川河川公園枚方地区

内容　完走されたランナーに記録証（完走証）を印刷し、手渡しする。

参加者　一般学生 30 名、学生スタッフ 13 名

連携事業

20　第5回「淀川大掃除 ～みんなの力で輝く淀川～」

「ボランティア体験ツアー～淀川掃除ボランティア～」が、2007年から始まり、2015年度で９年目を迎えた。また2011年１月21日に国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長より「淀川サポーター」として認定されたことから、記念事業として2011年度から実施している。

当日は、本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社の社員約30名と約600名の関大生と関大関係者が参加した。

【連携先】ミズノ株式会社

目的　本活動に参加することで、１人でも多くの関大生にボランティアに関心を持ってもらい、ボランティア活動への参加を促す。

日時　２月 28 日（日）10：00 ～ 12：00

場所　淀川河川公園

共催　関西大学
ミズノ株式会社

協力団体　ボランティアセンター学生スタッフ
体育会本部
国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

参加者　約 600 名
（ミズノ株式会社　社員 30 名を含む）

ゴミの回収量　約 101 袋（約 4.6 トン）

学生スタッフの声

今回初めて淀川大掃除に参加しました。開会式、閉会式の司会を務めることになったのでいつもの活動よりも緊張しました。司会に関しては、よく声が届いていたと言ってもらえたのでよかったと思います。活動については、体育会の人が多いグループだったこともあり、活気のある活動になりました。川沿いなどの危険な場所に入ろうとする人も数人いましたが、一回説明すればすぐに移動してくれたのでスタッフ側としてはありがたかったです。移動する際も、みんなきれいに列になって移動してくれたおかげでスムーズに活動できました。

（環境都市工・１年次生）

21　第4回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加

本研究交流集会では、学生ボランティアを支援する大学と地域関係機関の担当者間の連携協力を深めるとともに、学生間の交流と学び合いの機会とし、それぞれの具体的な事例や課題について情報交換や協議を行うことを目的に開催されている。本学ボランティアセンター学生スタッフも参加し、分科会での発表やブース出展を行った。

日程　3月4日（金）～6日（日）

場所　国立オリンピック記念青少年総合センター

内容　ボランティアに関するシンポジウム、学生ボランティアとのワークショップ、ブース出展

参加者　学生スタッフ9名

22　ボランティア体験ツアー ～景観ボランティア in 明日香村～

飛鳥川の清流復活、環境美化と景観形成を図るため、明日香村住民や関係者と協力し、河川周辺の清掃活動を実施した。また、午後からは野菜収穫体験をさせていただいた。ボランティア体験ツアーにすることで、参加学生に自然環境に関する啓発を促し、今後のボランティアの参加につなげてもらうこともねらいとした。

日時　3月6日（日）10：00～16：00

場所　奈良県明日香村
岡高市橋付近から飛鳥川下流

内容　飛鳥川周辺での清掃活動

参加者　一般学生1名、学生スタッフ8名

学生スタッフの声

午前中の飛鳥川清掃はみんなが積極的に火バサミを持ち、缶やペットボトル、紙類などのゴミを拾っていた。意外にも多くのゴミがあって、やりがいがあった。午後からの野菜収穫体験は、たくさんの野菜を収穫したり、ビニールをはがすというプチ農業体験ができた。私はこのような体験は初めてだったので、とても楽しかったし、野菜の豆知識、農業知識を教えていただき、とてもためになった。（文・2年次生）

23　学生スタッフ養成合宿（春）

春合宿は、「ボランティアセンター学生スタッフとしての自覚を高め、次年度につなげる」ことを目的として実施した。また、例年より開始時間を早め、ワークの数を増やしたことにより、有意義な合宿となった。

日程　3 月 14 日（月）～ 15 日（火）

場所　飛鳥文化研究所・植田記念館

参加者　33 名（堀グループ長・村上・渡瀬、学生スタッフ 30 名）

学生スタッフの声

グループワークでは、今までで一番積極的に発言し、自分の意見をみんなと共有することができたと思います。また、「もしも学生スタッフが廃止されたら」のワークでは、活動中に自分が目を向けることができていなかった、様々な視点について気づき、衝撃を受けました。（社会・2 年次生）

今回の合宿はいつもよりワークの数も多く、時間も長かったため盛りだくさんだったと思う。また、今回初めてであろう 4 回生プレゼンツもよかった。トークショーのような感じだったが、堅苦しくなく会議室にいるような気持ちで聞けて楽しかった。バスの中でのアイスブレイクや朝の目覚まし体操など今回は初めてのことが多くて新鮮だった。大変充実した合宿だった。（文・2 年次生）

学生スタッフ代表からの一言

2015 年度の代表を務めさせていただいております。

私には代表に就いた時から変わらずにずっと持っている心構えがあります。

“関わるみんなに少しでも楽しんでほしい”という思いです。代表としてボランティアセンター学生スタッフの取りまとめをしておりますが、学生ボランティアの皆さんにボランティア体験ツアーを楽しみ、ボランティアの魅力に気付いてもらうことはもちろんですが、加えて学生スタッフが多くの時間を使い企画したボランティア体験ツアーを自分たち自身でも楽しむことも重要だと考えています。

私たちが楽しむことにより、楽しい雰囲気が生まれ、学生ボランティアの方もより楽しみながらボランティアの一歩を踏み出せると考えています。

また、今年度は高槻エリアでも多くのボランティア体験ツアーを行うことにより、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパスの学生も気軽にボランティアに参加できるようになってきました。

同じ関大生として、身近な活動から地域をキレイにしたいという思いやボランティアをしてみたいという思いを実現できるようになってきています。

今年度は、ボランティアセンター学生スタッフ一丸となり「関大生にボランティアを広める」という言葉の関大生という部分について考えた 1 年となりました。

これからも千里山キャンパスだけでなく、高槻、高槻ミューズ、堺キャンパスと連携して、ボランティアをしてみたいが、一歩を踏み出せないという関大生をつないでいくことができればと思っています。

また、2015 年度でボランティアセンターが設立され、10 年が経ちました。

先輩たちからの想いをつなぎながら、学生ボランティアの想いに応えながら 10 年が経過しました。

つないでくださった先輩たちはもちろんのこと、後輩たちにも誇れる 10 年目にしたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ代表
2015年度代表　2 年次生　三上　直之

活動風景

ボランティア
団体版

ボランティア団体への支援

1　大学としての危機管理 ～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体（届出団体）に対して、活動の安心安全を確保するために「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボランティア（地域貢献）活動を依頼することもあるため、学生の経済的負担を軽減するために保険加入相当額を助成している。

助成団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ 学生団体「KUMC」、「WEVO」

2　ボランティアセンター・学生スタッフ・学内ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的にミーティングを実施している。このミーティングを行うことにより、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。

開催日時	4月13・20・27日、5月1・8・18日、6月1・15・29日、8月24・31日、9月7・14・28日、10月5・19日、11月9・23日、12月7・21日、1月7日、2月15・25日、3月3・7・17・24・31日（全28回）12：20～12：50
場所	千里山キャンパス　凜風館4階　会議室1
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

学生スタッフの声

学内ボランティア団体とのミーティングでは、ボランティア活動に関する情報共有や、各団体がどのような活動をしているのかを知る機会となっています。また、お互いを知るために交流会を企画・実施し、普段のミーティングに来ていないメンバーとも交流ができ、知り合いが増えました。今後は、一緒にボランティアの企画ができればいいなと考えています。（学生スタッフ2年次生）

3　ボランティアフェスティバル 2015

本イベントは、関大生に学内のボランティア団体について知ってもらうと共に、各部の新入部員獲得のために 2008 年度から実施し、2015 年度で 8 回目となる。ブースには、ボランティアに関心のある学生が多数訪れ、新入部員の獲得に繋げることができた。また、団体同士で交流を図ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

実施日程	5 月 14 日（木）・15 日（金）
場　　所	千里山キャンパス　凜風館 1 階　ラーニングエリア、ステージ
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

4　ボランティア団体の交流会

ボランティア団体のミーティングに参加している団体同士で交流を図りたいという声が上がったことから、2010 年度より実施している。交流会では、各団体に他の団体について関心を持ってもらうことはもちろん、自分とは異なった意見を持った人と出会う“きっかけ”にも繋がり、有意義な時間を過ごすことができた。

実施日時	5 月 7 日（木）18：00 ～ 19：45
場　　所	千里山キャンパス　第 2 学舎　C302 教室
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ

学外助成案内及び推薦

学外助成金

学外の学生支援組織や社会福祉協議会は、学生のボランティア活動の振興のための助成を行っている。ボランティアセンターでは、これらの団体から寄せられる助成金の案内を学内ボランティア団体に情報提供を行ったうえで推薦し、助成が受けられるよう支援している。今年度は以下のとおり助成金が支給された。

助成団体：一般財団法人　学生サポートセンター
推薦団体：学生団体「ＫＵＭＣ」
助 成 額：100,000 円
活動内容：「防災啓発」と「ボランティア活動による地域貢献」の２つを軸として高槻ミューズキャンパスを拠点に、高槻支部・千里山支部にわかれて活動を行っている。小学生への防災の出前授業の実施や、防災関連のイベントの参加、防災グッズ作りなどを通して楽しく防災を発信している。また、活動の中心となっている高槻市やその周辺地域で行われる数多くのイベントにボランティアとして参加し、「学生の視点」から地域活性化に取り組んでいる。

助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
推薦団体：児童文化研究サークル
子どもの国「あかとんぼ」
助 成 額：20,000 円
活動内容：毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露したり、外遊びを通して子どもたちと交流を行っている。また、年末には、子どもたちを招待して劇を披露する「チルドレンコンサート」といったイベントも実施している。

助成団体：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
推薦団体：手話サークル「あっぷる」
助 成 額：20,000 円
活動内容：聞こえる、聞こえないに関わらず、日々の手話学習や手話劇、手話コーラスなど手話パフォーマンスの発表を通して、サークルメンバーの総体的な手話表現力向上を目指している。また、他大学や地域のサークルとの交流によって実践力を養いつつ、手話の普及も行っている。

社会貢献を行う学生団体

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

1　手話サークル「あっぷる」

目的

聞こえる・聞こえないに関わらず、楽しむことを大切に日々手話の学習や、手話エンターテイメント（手話歌･劇）などの練習を通して、表現力とは何か、を意識し、その向上に取り組んでいます。学園祭ではそれらを発表することで手話の普及、イメージチェンジなどを図っています。また、他大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っています。

内容

週に 2 回、手話の学習会を行っています。加えて手話歌や劇などの発表で、団体としての統一感を意識しながら色んな人たちに活動の成果を見てもらう機会もあります。更に他団体との交流会で施設の準備から考えたり、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外に活動の幅を広げています。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会い、今までにない経験を積むこともできます。

【主な活動】

・関西大学主催手話交流会　　・学園祭での手話劇・歌発表
・声なし合宿　　・With Festa（手話歌発表会）

活動者の声

○学園祭

私たち手話サークル「あっぷる」は11月の学園祭で、歌に合わせて手話を表す手話コーラスと、セリフに手話を付けて行う手話劇を発表しています。聞こえに関係なく多くの方に楽しんでもらえる発表を目標に、 8 月から約 3 か月間練習を続けます。当日は他大学の学生や社会人など、多くの方に見に来ていただきました。とても緊張しましたが発表後には大きな達成感を得ることができました。（社会・ 2 年次生）

○ひまわり教室でのボランティア

私たちあっぷるは月に一度ひまわり教室で保育ボランティアをさせていただいています。ひまわり教室では、聴覚障がいをもつ子どもたちの保護者が講演を受けます。その間、私たちは子どもたちと遊んで待っています。 2 歳くらいの小さなお子さんだと、「お母さんー！」とよく泣いてしまいます。ですが、どのお子さんもおやつの時間になると笑顔いっぱいになります。ひまわり教室で、声、文字、手話どの方法でも伝えたいことが伝えられない難しさを感じることもあります。（法・ 2 年次生）

2　児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的　吹田市内の学童訪問や長期休みを利用した小学校への訪問、地域行事などで子どもたちとふれあい、その関わりを通じて私たち自身も成長したいと考えています。

内容　毎週水曜日に吹田市内にある学童保育へ訪問し、子どもたちに人形劇や紙芝居、ゲームなどのプログラムを披露し、ドッヂボールや鬼ごっこなどの遊びを通じて子どもたちと交流をしています。

【主な活動】

・毎週水曜日の学童訪問
・公演（地域行事への参加など）
・夏合宿（大阪府以外の小学校へ泊りがけで訪問）
・チルドレンコンサート（普段訪問している学童の子どもたちを招待し、演劇を披露する）

活動者の声

○夏合宿

夏合宿では大阪府以外の小学校に訪問させていただき、普段行っている人形劇や紙芝居を披露するのはもちろん、運動会やおばけ屋敷など様々なイベントに参加します。1日中子どもたちと一緒に過ごし、新しい発見や自分たちも成長できます。小学校に泊まるという普段できない体験もでき、あかとんぼの夏の風物詩となっています。　（法・２年次生）

○チルドレンコンサート

チルドレンコンサートは、普段訪問させていただいている学級さんに劇やダンス、ゲームなどを行う、あかとんぼのメインイベントです。２年生が台本を作り、１年生が演じ、３年生、４年生は衣装や舞台の大道具を作るなどあかとんぼ全員が一体となって子どもたちに楽しんでもらえるよう１つの劇を作りあげます。　（法・２年次生）

3　児童文化実践サークル「うぷ」

目的

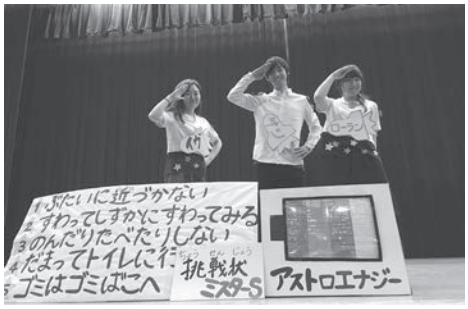
児童文化の啓蒙と発展に寄与し、吹田市内に限らず、社会に貢献できることを目的としています。その中で子どもと関わることで子どもを楽しませることはもちろん、自分たちも活動を楽しむことを基本とし、子どもの成長だけではなく自分たちの成長にもつながるような活動をしています。

内容

毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、うぷのプログラムであるペープサート（紙人形劇）、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露しています。また、その他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして 2 日間公演を行う合宿公演やこども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行っています。

【主な活動】

・新入生歓迎会　　・吹田市こども野外カーニバル
・学童保育訪問　　・夏合宿公演
・学園祭　　・KUシンフォニーホールでのイベント開催



活動者の声

○イベント

イベントは普段の活動で訪問している学級の子どもたちを大学に招待して公演を行うというものです。練習期間が他の行事と違って長く設けられているため先輩方や同回生との繋がりの大切さを意識でき、本番では自分たちが全力で仕上げたもので、子どもたちに笑顔を与えられる感動を得られます。（化学生命工・2 年次生）

○夏合宿

夏休み中に、地方の全校生徒 100 人以下の小学校に訪問させていただき 2 日間にわたって子どもたちと様々なプログラムを行います。最初はよそよそしい子どもたちが、時間とともにどんどん心を開いてくれてプログラムを楽しんでくれる姿を見て、とてもうれしく感じます。お別れ会で子どもたちが書いてくれたメッセージは、私のかけがえのない宝物です。（化学生命工・ 2 年次生）

4　ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は視覚特別支援学校や障がい者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としています。また、普段接する機会の少ない障がいを持つ方とのかかわりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することを目指しています。

内容

視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障がい者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容です。また、子どもとふれあうボランティアや 24 時間 TV の募金活動も行っています。

【主な活動】

・視覚特別支援学校での活動
・24時間ＴＶ募金活動
・吹田こどもまつり
・障がい者福祉施設「ゆうゆう会」での活動
・「まちつく」への参加
※「まちつく」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる夏休みの小学生向けワークショップです。

活動者の声

○盲学校

盲学校では一緒にトランポリンやブランコをするときもあれば、遠出をすることもあります。学外での活動では目の見えない方をどのように楽しませるか考えたり、周りの人への配慮や障がいを持った方に危険を知らせるよう気を配ったりするため、緊張します。しかしその度に障がいを持った方の純粋な笑顔や、楽しそうな挙動に介護している自分自身が元気をもらいます。（法・３年次生）

○ゆうゆう会

ゆうゆう会では月に一度、障がいをお持ちの方々と一緒に箕面の滝を見に行ったり、神戸へ夜景を見に行ったりクリスマス会やゲームをしたりなど楽しく活動しています。初めは障がいをお持ちの方と接することに対して、緊張だったり不安だったりがあったりするかもしれませんが、活動に参加していくうちに楽しくコミュニケーションをとれるようになり、障がいをお持ちの方が楽しそうな表情を見せてくださるのがとても嬉しくやりがいを感じます。（法・２年次生）

5　文化会「ユネスコ研究部」

目的

私たちはユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」と言う理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っています。子どもたちには普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて異世代交流の楽しさと集団行動の大切さを学んでもらうことを目的としています。また、子どもたちとともに行動することにより、部員の行動力や責任感を培い、新たな成長につなげていくことも目的の１つです。

内容

吹田市在住の子どもたちと月に１度交流する「ユネスコスクール」を中心に活動しています。「ユネスコスクール」では運動や料理、科学実験など様々な活動をしたり、遠足や宿泊学習を行っています。また夏休みには過疎地の小学校を訪問し、２～３日にわたり現地の子どもたちとの交流を行っています。他にも吹田市を中心に、地域のイベントの運営補助や清掃活動などのボランティア活動もしています。

【主な活動】

・ユネスコスクール　・吹田ハロウィンパレード　・過疎地の子どもたちと交流
・ハロハロＳＱＵＡＲＥ　・文化フェスティバル　・さくら広場
・旧西尾家住宅でのボランティア

活動者の声

○ユネスコスクール

月に１度開催されるこの活動では、吹田市の小学校を対象に参加者を募り、遊びや社会見学を通して小学生との交流を行っています。はじめは不安がっていた参加児童も大学生や他の小学校の友達と活動を共にしていくにつれ、つながりを感じ、次回の活動を楽しみにしてくれる姿を見ることができました。私はこの活動で子どもとのつながりを感じることができましたし、さらに活動の中で自然と子どもの安全に気を配っている自分に気づき、成長を感じることができました。（政策創造・１年次生）

○ハロハロSQUARE

ハロハロSQUAREとは外国にルーツを持つ子どもたちに日本語の教育や学校の宿題を教える活動です。この活動では「外国にルーツを持つ子どもたちにとって、ここ日本が居心地のいい場所になってほしい」という思いをもってユネスコ研究部だけでなく他のボランティアの皆さんと活動しています。自分が教えたところを「分かった！」と言ってくれるのは大変うれしいことです。さらに、様々な国の子どもがいるので、たくさんの文化に触れる貴重な機会でもあります。（文・３年次生）

6　学生団体「KUMC」

目的

私たちは社会安全学部（高槻ミューズキャンパス）で日々学んできた知識を活かして、防災の知識をより多くの人に知ってもらうために、社会に向けた防災知識の発信を主な活動としています。災害が起こった時に自分たちの伝えた知識が活かされることを目標にしています。また、地域のお祭りなどでのボランティアにも参加し、地域貢献活動も並行して行っています。

内容

防災に関わる活動では、地域の小学校における防災の出前授業や様々なイベントに参加し、ゲームなどを通して防災の知識を楽しく学んでもらっています。地域貢献活動では、高槻市や茨木市、吹田市を中心に様々なイベントでのボランティアに積極的に参加しています。

【主な活動】

・小学校での防災の出前授業
・防災ゲームや防災グッズの作成
・図書館での防災絵本の読み聞かせ
・地域のイベントでのボランティア

活動者の声

○防災教育

防災教育班では、高槻市内の小学校を中心に、災害や事故から身を守る方法を伝える防災出前授業を行っています。防災というと、少し難しそうにも聞こえますが、子どもたちに、防災グッズに触れてもらうことや、小学校周辺の写真から危険な場所を考えてもらうことにより、子どもたちも一緒に参加できる授業を作っていくことで、楽しく防災について学んでもらうことを目標にしています。防災のことを楽しく伝えることは、いつも試行錯誤の連続ですが、仲間との相談や、子どもたちの疑問からは、多くの発見が得られ、子ども達と一緒に私たち自身も成長できることが魅力です。　（社会安全・２年次生）

○地域イベント

ＫＵＭＣでは、イベントのボランティアなどを通して多くの地域の方々と交流する機会があります。2015年に参加したボランティアフェスティバルで私たちは立体ハザードマップを使い地域の方々と防災時の避難について考えました。防災について地域の方々に伝えるだけでなく同時に多くのことを地域の方々から教えていただきました。たくさんの学びを得たイベントでした。　（社会安全・２年次生）

7 「WEVO」

目的

私たちにできる事を楽しくボランティアを行う事が目的です。キャンパスのある堺で、地域に根差した活動を行っております。またボランティアを行うにあたって、自分たちで連絡、調整、企画、そしてボランティア先で交流や経験をする事によって、様々な事を学んでいきます。

内容

私たちのサークルで主に行っている活動は、幼稚園訪問と大和川清掃です。幼稚園と大和川はキャンパスから歩いて行ける距離にあり、地域に根差した活動をしています。また福祉施設にてレクリエーションを行ったり、学外のボランティアにも参加しています。ボランティア情報の共有も行っています。

【主な活動】

・大和川清掃
・福祉施設でのレクリエーション事業
・幼稚園訪問
・マラソンボランティア

活動者の声

○大和川清掃

大和川は、学校の近くに流れている川という事でとても近い存在です。河川敷のごみを拾い、川がきれいになっていくのは気持ちがよく嬉しいです。先輩達とわいわいしながらごみを拾うのは楽しく、ごみをたくさん拾うことができて達成感を味わえました。

（人間健康・２年次生）

○幼稚園訪問

催し物の計画をしている時は楽しんでくれるのか、そして子ども達の相手役が務まるのかと不安でしたが、実際に子ども達と触れ合うと一緒に楽しめてよかったです。少しの時間でしたが、子ども達と話せて充実した活動になりました。（人間健康・１年次生）

各団体の代表者の声

手話サークル「あっぷる」

代表：高安　大貴

初めて手話サークル「あっぷる」に参加した時から大げさに言わずとも世界が変わりました。「手話って何？」そんな状態だった私に手話の魅力を伝え、引っ張ってくれる先輩方の姿に憧れ、今年度は代表を務めることになりました。老若男女を問わない手話でのコミュニケーションは 18 年間生きてきた私の人生を大きく変えてくれました。あっぷるは非常に様々な人が集まってくるサークルです。休み時間はメンバーが集い、語り合い、笑う、そんな風景を見ることが出来ます。そして、団体としては、他の大学の手話サークルと合同企画をたてたり、ボランティア活動に積極的に参加したり、毎週メンバーを楽しませる為に会議したりするというメリハリを持っています。高い技術と高い意識、それを兼ね備えたあっぷるの活動を通して私も共に成長してきた、と胸を張って言うことが出来るようになりました。今自分に出来ることは何か、そう考えたとき思うのは、このみんなが集まるあっぷるという場を守りたい、続けたい、ということです。今年度は例年より多い新入生に見られながら毎週の活動を代表としてこなしています。残り活動を精一杯、メンバーと共にやり抜くんだと決めています。

児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

代表：宮本　大暉

あかとんぼとして活動していく中で、大切に思うことが３つあります。１つ目は、普段訪問させていただいている学級の子どもたちの成長です。１年生から３年生までの長い間関わるので、長期にわたってみんなの成長を感じられるということがとても素敵に思います。２つ目は、あかとんぼ内での交流です。学級訪問だけでなく、公演依頼など様々な活動をしていく中で、チームワークがとても重要になります。ですので普段からの交流を大切にしようと強く感じます。３つ目は、みんなの笑顔です。私たちの活動を通じて子どもたちを楽しませることができたり、また地域の方々にも笑っていただけることがとても励みなっています。あかとんぼの代表として、活動に協力していただいている皆様への感謝を忘れずに、皆様を笑顔にできる活動をしていけるよう精進してまいります。

児童文化実践サークル「うぷ」

代表：小泉　宏樹

私はうぷでの学童保育や夏合宿など特別な活動を通して、この活動の素晴らしさを知りました。そして私は代表になりさらにそのことを強く実感しました。

今年行った千里第二こどもカーニバルでは、たくさんの子どもたちが見に来てくれ、とても喜んでくれました。夏合宿では、小学校の職員の方や現地の方、その他さまざまな方々のおかげで無事公演を行うことができました。その小学校の子どもだけでなく、地元の子どもたちも来てくれ、大いに盛り上がりました。

私は日々の活動一つ一つにおいて、協力してくださっている方々にとても感謝しています。そのような活動に携われていること、その活動の代表を務めていることに誇りを感じます。これからも感謝の気持ちを忘れず、子どもたちに楽しんでもらえるように全力でサークル活動に取り組んでまいりたいと思います。

ボランティアサークル「チャレンジャー」

代表：服部　康之

私はボランティアが好きです。活動するたびに今までできなかったことができるようになっていき、成長を感じられるボランティアが大好きです。今年度は代表という立場でボランティアをしておりますが私自身経験が浅いため周りの方たちに頼ることもあります。障がいを持った方の接し方、言葉でのコミュニケーションはなくても障がいを持った方がどのような気持ちなのか読み解く力など初めて活動される方でなくても難しいことはたくさんあります。代表として、また、先輩として後輩たちがボランティアの中にやりがいと楽しさを見つけられるよう精進していきたいと思います。

文化会「ユネスコ研究部」

代表：濱本　壮太

大学に入ったら何か人の役に立ちたい、ボランティアがしたいという思いがありました。そして自分は子ども好きということもあり子ども関係のボランティアを中心にしているユネスコ研究部に入部しました。そこで活動をしていると、ある活動の最後に子どもを迎えに来たある親御さんに「子どもが、友達ができて嬉しいと言っているんです。これからもよろしくお願いします」と言うお言葉をいただきました。それを聞いた瞬間にユネスコ研究部でボランティアをしていてよかったと感じました。私たちの部活は、このように人と人をつなげ、そこから部員が成長することのできる場所です。人と人がつながると、温かい気持ちが芽生えます。そのお手伝いをできるユネスコ研究部は素晴らしい部活です。これからも、人と人のつながりを大切にできる部活であり続けたいと思います。

学生団体「KUMC」

代表：清水　智絵

私は学生団体 KUMC の活動の中で様々な経験をしました。私はこの団体に入ったことで、多くの人と出会いました。大学４年間の過ごし方は人それぞれですが、このようなボランティア活動に携わると、日頃の生活の中だけでは絶対に出会えなかったであろう多くの方と知り合えます。そして私は活動を通して出会った人々からたくさんのことを学びました。ボランティア活動には本当に多くの魅力が詰まっています。そしてその活動に共に取り組める仲間や、活動を通して知り合った素敵な人々は私の価値観を大きく変えてくれました。今の私がいるのは、このボランティアを通して出会った人々と、この学生団体 KUMC があったからだと言えます。

「WEVO」

代表：太田　ひかる

ボランティアに興味を持ちサークルに入り、今では代表をやらせて頂き、月日が流れるのはとても早いと実感しております。WEVO では、幼稚園訪問と大和川清掃を中心に活動を行っております。幼稚園訪問の際、園児たちに「楽しかった」や「また来てね」と言われる度に大変嬉しいです。また今回福祉施設で初めて、自分たちでチラシ作成から企画を行いました。チラシ作成や車椅子レクリエーションにおいて、一から企画を練るのは大変でしたが、良い経験となりました。今後とも様々なボランティアを行い、成長していきたいと思います。

広　報　活　動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動をおこなっている。

1　Webサイト

タイムリーな情報を発信し、ボランティア参加に繋がるように心がけた。

2　ボランティアセンターリーフレットの新入生全員配付

2010 年度より、ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新入生獲得を目的に作成し、新入生全員に配付している。

作成以降、センター来室者が増加した。また、学内のボランティア団体においては新入部員の増加に繋がった。

2015年度版（12,500部）

3　機関誌「Volury（ボラリー）」の発行

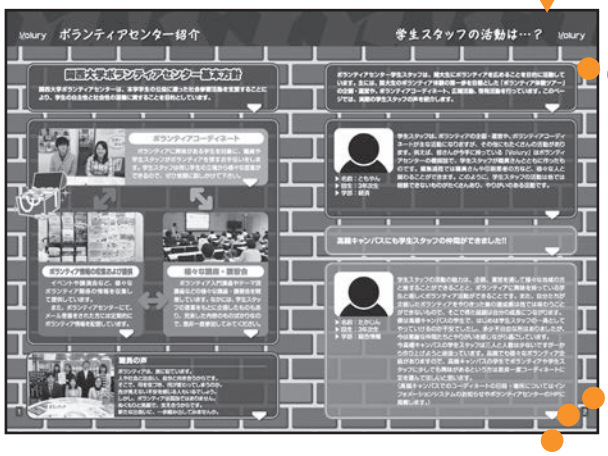
職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心とし、学生スタッフの自主性を引き出すように支援した。

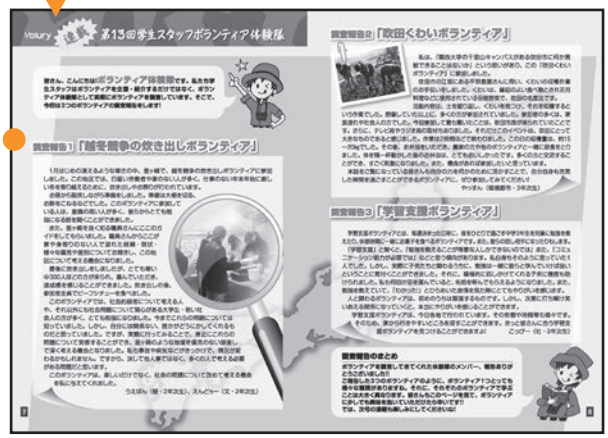
・vol.26（4 月 1 日発行）、vol.27（7 月 1 日発行）、vol.28（12 月 1 日発行）

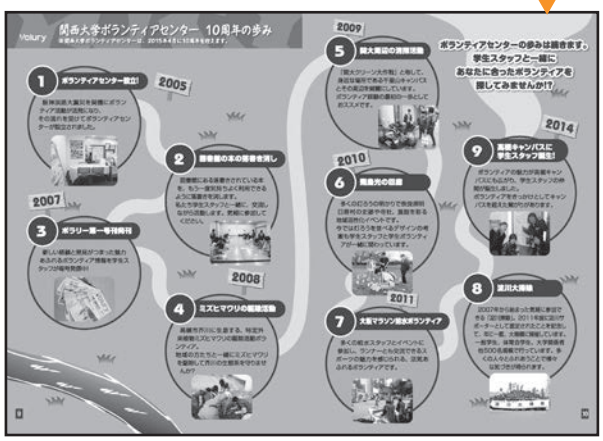
・vol.26 は 12,500 部（新入生に対するボランティアガイダンス等で配布）、vol27・28 は 2,000 部発行

「Volury」Vol.26（2015年４月１日発行）

新入生向けに
ボランティアセンター、ボランティア
センター学生スタッフ、ボランティア団体の
紹介をした。また、ボランティアセンター設立
10周年記念号としてページを増やし、
ボランティアセンター10周年
の歩みも紹介した。







「Volury」Vol.27（2015年７月１日発行）

ボランティア
コーディネートの紹介、
夏のおすすめボランティア
の紹介を行った。

「Volury」Vol.28（2015年12月１日発行）

ボランティア
体験ツアーの紹介や、
ランキング形式で
ボランティア情報の
紹介を行った。

学　生　の　声

ボランティア体験報告

ボランティアセンターは、活動参加者がボランティア体験についてふりかえる機会を作るために、体験報告を寄せてもらうよう呼びかけをしている。また、体験報告をホームページなどに掲載し、自由に閲覧できるようにすることにより、具体的なイメージが湧きやすく、同じ関大生が参加したボランティアであれば、安心して参加できるという学生も少なくないようである。

ここでは、2015年度に学生から寄せられた体験報告を一部紹介する。

分　　野	環境
内　　容	大学周辺の清掃活動
日　　程	４月11日（土）
感　　想	ボランティア活動に興味があり参加しました。きれいに見えても意外とたくさんゴミが落ちているんだなと思いました。吹田市は路上喫煙禁止にもかかわらず、タバコの吸殻のゴミが目立ちました。機会があればまた参加したいです。（外国語・１年次生）

分　　野	学校
内　　容	図書館の本の落書き消し
日　　程	６月23日（火）
感　　想	最初にアイスブレイクを行ったことで打ち解けることができた。そのおかげか本来の活動である落書き消しをしている時も隣の人同士でいろいろなことを話しながら楽しく活動できていたと思う。私は1冊しか消せなかったが全体では40冊もの本を消すことができたのでよかった。（法・２年次生）

分　　野	イベント
内　　容	子どもに遊びを通して国際理解について学んでもらう
日　　程	８月４日（火）・５日（水）
感　　想	子どもたちが楽しそうに参加してくれてよかった。準備段階でやらなければいけないことの把握が難しく、大変なこともあったがみんなで助け合って活動できた。ボランティアの対象者である子どもたちのことを考えながら、企画・運営できたこともよかった。どの活動でも、対象者のことを考えることが大切なのだと改めて思った。（文・１年次生）

分　　野	環境
内　　容	アユの産卵場を整備する
日　　程	10月17日（土）
感　　想	胴長を着て川の中を耕したり、アユが川を上りやすいようにスコップで石を取り除くなど、普段なかなかできない体験ができた。参加者同士、会話しながら川の中を耕す作業はとても楽しく、ボランティア活動であることを忘れるくらいであった。自然とふれあい、ボランティアの楽しさを改めて感じることができた。 （文・１年次生）

分　　野	イベント
内　　容	キャンドルの準備、設置、点火、片づけ
日　　程	11月７日（土）
感　　想	朝から夜までの活動で、振り返ってみると結構ハードなボランティアだった。紙コップに重りとして砂を入れる作業と、デザイン通りに紙コップを並べる作業の２つを行ったが、後者が難しい作業だった。一般のお客様から見てきれいに見えるように並べるのは大変だったが、みんなで協力しながら並べた。苦労して並べた紙コップに火が灯り、描いていた通りの景色になった時は達成感があった。ボランティア同士仲良くなれてうれしかった。　（文・１年次生）

分　　野	まちづくり
内　　容	公園や川の土手に花を植える、花植えのデザインを考える
日　　程	11月15日（日）
感　　想	地域の方と一緒に楽しく活動でき、非常によかった。花の種類や向き、成長後の大きさなど考えなければならないことも多くあるが、地域の方が丁寧に教えてくださったおかげで、いいものを作ることができてやりがいを感じられた。植えるだけで終わるのではなく、手入れのお手伝いや成長した姿も見たいと思った。 （文・１年次生）

分　　野	環境
内　　容	川沿いの清掃活動
日　　程	11月29日（日）
感　　想	日曜日のボランティアだったので参加しやすかった。私は熊手を持って川の中や手が届かない所のゴミを引き寄せる役目を任されたが、熊手を持って移動するのは予想以上に重く、女性には大変だと思った。活動中にランニングをしている方から「お疲れさま。ありがとう！」と言われ、まさか声をかけてもらえると思わず、掃除をしてよかったと達成感を感じた。また、地域の方から「若い人が多くて助かります」と言われ、参加してよかったと思った。　（文・２年次生）

分　　野	環境
内　　容	ミズヒマワリの駆除活動
日　　程	12月５日（土）
感　　想	胴長を着て川に入りミズヒマワリの駆除を行った。胴長を着る機会はそれほど多くないと思うので、貴重な体験であった。また、はじめは川にたくさんのミズヒマワリが生い茂っていたが活動後はきれいになくなったのでやりがいがあった。活動場所へ移動するときに学生ボランティア同士交流できたこともよかった。 （環境都市工・１年次生）

分　　野	イベント
内　　容	サイエンスショーの補助
日　　程	12月13日（日）
感　　想	今回サイエンスショーの補助をさせていただいた。子どもたちに加え親御さんたちもいたためかなりの人数が集まっていた。私は子どもたちに円飛行機リングの作り方を教えた。子どもたちに「ありがとう」と言ってもらえうれしかった。予想以上にたくさんの子どもたちが来場し、大変だったがやりがいを感じられる活動だった。 （文・２年次生）

分　　野	イベント
内　　容	道案内、イベントのＰＲ活動
日　　程	12月13日（日）
感　　想	イベントの開催自体が今回初めてで、企画段階から分からないことだらけでしたが、本番は臨機応変に対応することができた点がよかったと思います。「道案内しています」という看板を首からかけていたことで、来場者の方は道を聞きやすかったようで、看板を作ってよかったと思いました。また、着ぐるみを着てＰＲ活動を行ったのですが、想像以上に子どもが集まってきてくれて嬉しかったです。着ぐるみを着て階段を上ることは大変でしたが、補助の人がいたので本当に助かりました。今回の活動を通して、新しいボランティアに参加することの楽しさを実感しました。また新しいボランティアに行ってみたいと思いました。 （文・１年次生）

資　　料

ボランティアセンター内規

制定　平成17年４月28日

（趣　旨）

第１条　この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第２項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

（目　的）

第２条　センターは、本学学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

（事　業）

第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) ボランティアの相談に関すること。
(2) ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
(3) ボランティア講習会に関すること。
(4) 関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
(5) その他ボランティアに関すること。

（登　録）

第４条　センターの利用を希望する学生は登録するものとする。

（センター長）

第５条　センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

（ボランティア連絡協議会）

第６条　センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第２項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、次の者をもって構成する。

(1) センター長
(2) 学生センター副所長　１名
(3) 専任教育職員のうちから学長が指名する者　若干名
(4) 学生サービス事務局長
(5) 学生サービス事務局次長
(6) ボランティア活動支援グループ長
(7) 事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパスグループ・高槻ミューズキャンパスグループ・堺キャンパス事務室）若干名

３　協議会の議長は、センター長とし、副議長は、議長の指名による。

４　第２項第１号、第２号及び第４号から第６号までに規定する委員の任期は役職在任中とする。

５　第２項第３号に規定する委員の任期は２年とし、再任を妨げない。

６　委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

７　協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（学生スタッフ）

第７条　センターに、学生スタッフを置く。

２　学生スタッフは、第３条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

第８条　この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

（事　務）

第９条　ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附　則

この内規は、平成17年４月１日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附　則

この内規（改正）は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成22年４月1日から施行する。

附　則

１　この内規（改正）は、平成26年４月１日から施行する。

２　この内規（改正）施行の際に第６条第２項第３号により選出される委員の任期は、同条第５項の規定にかかわらず平成26年９月30日までとする。

関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針

2007年１月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

１　公益性・公共性が高い活動。
２　営利を目的としない活動。
３　活動にあたり、安全性が高いと判断される活動。
４　受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動。

（１）ボランティア募集の受付

①初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
②来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
③ボランティア募集団体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
④学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
⑤個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

（２）ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

①法令に違反するもの。
②公序良俗に反するもの。
③人体に有害なもの、危険が伴うもの。
④政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの。
⑤関西大学ボランティア連絡協議会が不適当であると判断するもの。

（３）ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

①ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
②ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
③ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
④学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。
⑤次の内容を含む活動については紹介できないこととする。
（ア）22時以降６時までの深夜早朝活動
（イ）精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
（ウ）水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
（エ）車の運転
（オ）本来、有資格者によってなされるべき活動

（４）免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以上

2015年度　事務組織図

- 理事会
  - 常任理事会
    - 法人本部
      - 総合企画室
        - 企画管理課
        - 広報課
      - 総務局
        - 秘書課
        - 総務課
        - 人事課
        - 東京センター
      - 財務局
        - 財務課
        - 出納課
      - 管財局
        - 管財課
      - 初等中等教育事務局
        - 初等中等教育課
        - 高中幼事務室
        - 北陽事務室
        - 初等部・中等部・高等部事務室
      - 創立130周年記念事業・募金事務局
        - 記念事業・募金事務室
    - 大学本部
      - 学長室
        - 学長課
        - 研究支援グループ
        - 研究所事務グループ
        - ソシオネットワーク戦略研究機構事務グループ
        - 社会連携グループ
        - 先端科学技術推進機構グループ
        - 高大連携グループ
        - 国際教育グループ
        - 国際研究・協力グループ
        - 国際プラザグループ
      - 学事局
        - 教務事務グループ
        - 授業支援グループ
        - 学生相談・支援センター事務グループ
        - 学部・大学院事務グループ
        - 専門職大学院事務グループ
        - 教育改革支援グループ
      - 高槻事務局
        - 高槻キャンパス事務グループ
        - 高槻ミューズキャンパス事務グループ
      - 堺事務局
        - 堺キャンパス事務室
      - 入試事務局
        - 入試グループ
        - 大学院入試グループ
        - AO入試グループ
        - 入試広報グループ
      - 学生サービス事務局
        - 学生生活支援グループ
        - 奨学支援グループ
        - ボランティア活動支援グループ
        - スポーツ振興グループ
        - 保健管理センター事務室
      - キャリアセンター事務局
        - キャリアセンター事務グループ
        - キャリアセンター理工系事務グループ
        - エクステンション・リードセンター事務グループ
      - 学術情報事務局
        - 図書館事務室
        - 博物館事務室
        - 出版部出版課
        - システム管理課
        - システム開発課
    - 内部監査室

関西大学ボランティア連絡協議会委員

2015.4.1 現在

所　属・資　格	氏　名	任　期	備　考
ボランティアセンター長 （社会学部・教授）	黒　田　　勇	役職任期中	委員長
学生センター副所長 （文学部・教授）	赤　尾　勝　己	役職任期中	副委員長
社会学部・教授	加　納　恵　子	H26.10. 1 ～28. 9 .30	
人間健康学部・教授	山　縣　文　治	H26.10. 1 ～28. 9 .30	
社会安全学部・准教授	菅　　磨志保	H26.10. 1 ～28.9.30	
学生サービス事務局長	中　塚　義　史	役職任期中	
学生サービス事務局次長	綱　木　　寛	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ長	堀　　律　子	役職任期中	
ボランティア活動支援グループ	吉　田　えつ子		
ボランティア活動支援グループ	村　上　翔　也		
高槻キャンパスグループ	鈴　木　宣　夫		
高槻ミューズキャンパスグループ	廣　内　咲　季		
堺キャンパス事務室	前　田　貴　史		

2015年度ボランティア活動支援グループスタッフ

ボランティア活動支援グループ長	堀　　律　子
ボランティア活動支援グループ	吉　田　えつ子
	村　上　翔　也
	渡　瀬　亜　紀
	春　名　未　希

関西大学通信Vol.448　2016年3月19日発行

ボランティアセンター学生スタッフ つながり

先輩からの感謝のメッセージ

児島さんは、人懐こくて壁を作らず、
意見をどんどんぶつけてきてくれて、
休日も一緒に遊ぶほど仲良くなりました。
ずっとその自然体でいてくださいね。

文学部4年次生
三浦綾乃さん

ボランティアセンター学生スタッフの代表として、常に皆に寄り添ってくれました。

社会学部3年次生 児島七海さん

新歓でのボランティアセンターのブースで説明をしてくれたのが三浦さんでした。私を次の副代表に、と推してくれたのも三浦さんで、楽しそうにしながら、常にスタッフの身近にいる三浦さんを見て、私もやってみようと思いました。運営や全体のことを考えるだけでも大変なのに、そんな素振りも見せず、一人一人に丁寧に接する姿勢は見習いたいと思います。社会人になった三浦さんからもますます刺激をもらえることが楽しみです。

関大ローカル第145号　2016年3月22日発行

明日香村でボランティア
学生が清掃と収穫

ボランティアセンターの学生スタッフと公募の学生合わせて9人が3月6日、奈良県明日香村にてボランティア活動を行った。午前中は明日香村の職員や他の参加者と共に、飛鳥川周辺の清掃活動に参加。午後には現地の農家で、野菜の収穫や耕作後の畑の片付けを手伝った。

清掃活動では川沿いの道を約1時間半かけて美化。1人ずつごみ袋とトングを持ち、ごみを拾い集めた。参加者の袋には空き缶やたばこの吸い殻、ビニール袋などたくさんのごみが集められた。活動後にはトラックで運び出されるほどの量のごみが回収された。

活動に参加していた学生スタッフの遠藤曹（つかさ）さん（文・2年）は、明日香村でのボランティアについて「普段は学生だけで活動しているが、今回のような外部の人と直接関わる活動する機会はあまりないのでありがたい」と話した。

また午後の農業ボランティアでは形や大きさがバラバラで、商品にならなくなった大根やブロッコリーを収穫。学生らは服や手に泥をつけながら、農業の大変さを体感していた。「明日香村での農業ボランティアに参加するのは今回が初めて」と話すのは、学生らの付き添いで一緒に活動に参加していたボランティアセンターの渡瀬亜紀さん。ボランティアセンター全体で、明日香村での農業のボランティアをするのは今回が初めてのことだったという。渡瀬さんは「学生にとっても貴重な体験になったはずだ」と笑顔で一日を振り返った。

児童の学習支援や学外のイベントの会場準備などさまざまな活動を行っているボランティアセンター。渡瀬さんは「ボランティアセンターではたくさんのボランティアを経験できる。一人一人に合ったものを探せるように工夫しているので、遠慮せず気軽に連絡してほしい」と語った。

【上野真奈未】

野菜を収穫する学生スタッフ（3月6日・明日香村で　撮影＝上野真奈未）

ほとんど0円大学

おとなも大学を使っちゃおう

奈良県明日香村で8/29（土）・8/30（日）に行なわれた「飛鳥　光の回廊2015」。
このイベントは明日香村各地を灯ろうで灯し、お寺のライトアップやオブジェが設置されるというもの。
関西大学は明日香村と地域連携を結んでおり、その一貫として5年前からボランティアセンター学生スタッフがこのイベントに参加しています。

一日目の8/29（土）は残念ながら雨のため、灯ろうを使ったイベントは中止となってしまいましたが、二日目の8/30（日）は一部中止となったものの無事開催されました。その様子をレポートします！

お昼時の飛鳥。すでに人がたくさん集まっています。
雨が降っていたこともあり、空気が澄んでいて、とても気持ちいい！

日が暮れると、灯ろうに火が灯され幻想的な風景が広がります。こちらは石舞台エリアに設置されていた「飛鳥　光の竹回廊」。

この日、関西大学ボランティアセンターの学生スタッフ3名に苦労したところと見所をお聞きすることができました。

左）商学部2年生の秋房さん、中央）今回リーダーを務めている文学部2年生の遠藤さん、右）昨年リーダーを務めていたという社会学部3年生の岡本さん

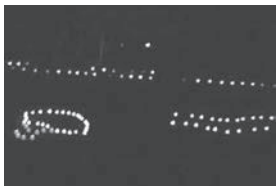
遠藤さん）大変だったのはやっぱり天気ですかね･･･。1日目は中止になってしまいましたし、2日目の今日も当初の予定より縮小して行っています。
岡本さん）1日目に設置は完了していて、今日は火を灯したんですけどカップにたまっていた水を捨てて、そして火をつけて･･･という作業を石舞台エリアに設置された灯ろう約950個分（！）行いました。あと、今年から後片付けにも参加するので、それも大変ですね。
秋房さん）見所･･･。どこでしょう･･･。
ほとゼロ）全部ということですかね？
3人）そうですね！　見所は全部です！（笑）

では見所は「全部」の灯ろうをどうぞ！　今年の灯ろうのテーマは「花鳥風月」。

こちらは「花」。

お次は「鳥」。

「風」。扇子で起こした風が風車を回しています。　　最後は「月」。



石舞台の周りを見事に「花鳥風月」をテーマとした灯ろうが彩っていました。
会場では「分かった！　花鳥風月になってるんやわ！」とお客さんのたのしそうな声も聞こえてきます。
夏休み最後の思い出に、と家族連れの方もたくさんいらしていましたが、みなさん感嘆の声をあげてらっしゃいました。

ライトアップされた
石舞台

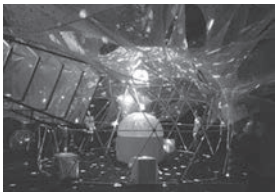
灯ろうは石舞台
内部にまで設置

石舞台エリア以外でもアート作品や灯ろうの展示が行われていました。
とてもキレイだったので、こちらも少しご紹介！

伝飛鳥板蓋宮跡（でん　あすかいたぶきのみやあと）でのアート展示

街灯は無く灯ろうの光を
頼りに歩いていく

高松エリア「光りの地上絵」



高松エリア
「SPACE EGG -創造の卵-」

明日香村全体を使ったアートイベント「飛鳥　光りの回廊2015」。
同時開催されていた「飛鳥光の食舞台&世界の肉バルin飛鳥」も含め、多くの方々が楽しんでいらっしゃいました。
わたしの中で「飛鳥＝歴史・自然」というイメージだったのですが、今回行ってみると、歴史や自然を感じることはもちろん、それだけではない土地の魅力・人柄の良さを感じることができました（一般家庭の前で住民の方が展示している切り絵を見ていたら、その住民の方に串こんにゃくをいただきました）。
こういったイベントをきっかけに明日香という土地の魅力を再発見する。そのきっかけ作りに関西大学の灯ろうも一役かっていました。これこそ「地域貢献」ですね！

（ほとんど0円大学　ホームページより　2015.9.11）

http://hotozero.com/enjoyment/learning-report/飛鳥光の回廊_関西大学/

ミズノ発見隊

関西大学 学生さんと淀川大掃除！！

こんにちは　ミズノ発見隊です。
3月も終わりになり、進級・進学・就職などの準備で、部屋を掃除したり、引越し準備をしたり、忙しくされているのではないでしょうか。
さて、今回のミズノ発見隊は、2月28日に行われた関西大学さんとミズノの共同ボランティア活動「淀川大掃除」に参加してきたので、その様子をレポートしたいと思います。

この清掃活動は、もともと関西大学のボランティアセンター学生スタッフさん、有志の学生さんが中心となり、2007年から始まりました。そして、2010年度に国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所より「淀川サポーター」に認定されたこと、本事業が5年目を迎えたことを記念して2011年度から「淀川大掃除」が始まりました！

5回目の今回は関西大学さんの関係者550人とミズノ社員50人、他総勢600人で大掃除を実施しました。
「何でミズノが川の大掃除と関係があるの？」とお思いでしょうね。
関西大学さんとミズノは2011年に教育・研究・文化の振興、人材育成、スポーツの振興、社会貢献などの分野において積極的に連携をしていく協定を締結しました。スポーツのみならず、このようなボランティア活動も連携して実施しているんですよ。
当日は午前10時から朝礼。
まずは関西大学　学生センター所長　兼　ボランティアセンター長の「淀川のゴミと共に自身の心に積もったゴミもきれいにしましょう。」との挨拶から始まり、学生スタッフの副代表さんより「今回のような社会活動から気づきを得て、人間的成長をし、結果に繋げていきましょう。」とのすばらしい話がありました。

600人の準備も整い、いよいよ清掃開始です。
A,B,Cとブロックごとに分かれ、ゴミを拾っていきます。
ゴミの種類はペットボトル、カン、ビン、巨大ブルーシートや、鍋、携帯電話、野球のボール、傘、などなど、想像を超える様々なものでした。

千と千尋の神隠しで、川の神様が温泉に汚れ(ゴミ)を落としに来た時のシーンが思い出されますね。

参加した学生スタッフの方に聞いたところ、このようなボランティア活動に参加するようになって、もっと社会の役に立ちたいと考え始め、社会人になってもこのような活動には積極的に参加していきたいと語っていました。

終了後、ボランティアセンター設立10周年記念タオルとクリアファイルが全員に支給されました。

さあ、作業が終了し、閉会式です。

関西大学体育会本部長より「自分自身の心をきれいにする整理ができたでしょうか」と話があり、その後、ミズノのナショナルチェーン営業本部　太田部長から「今後も連携して、社会貢献をしていきましょう」との挨拶がありました。

収集結果は一般ゴミが3,240kg、カン、ビンが450kg、ペットボトルが900kgなど。600人で一斉に活動し効率的にゴミが集められましたが、このような活動がなくても川や河川敷が綺麗になる日がくるといいですね。最後に600人全員で記念撮影をし、活動を終了しました。

関西大学 学生のみなさん、ミズノ社員のみなさん、お疲れ様でした。きっと、淀川の神様も「よきかな〜」と喜んでいますよ。

（ミズノ株式会社　ホームページより　2016.3.25）

https://www.mizuno.jp/contents/hakkentai/about/20160325.aspx

編 集 後 記

ボランティアセンター設立10周年を無事迎えられましたのは、多くの皆様のご支援を頂いたおかげです。ありがとうございました。

私たちは、学生がボランティア活動を通じ、多くの学びや気づき、貴重な経験が得られるよう日々育成・支援を行っています。

育成とは、学生たちに、「課題を見つけ、自ら解決する」を体験させ、生きる力を伸ばすよう導くことです。

「正解のない問い」にどんな答えを出すのか。そのヒントをくれるのは、小さな子どもだったり、お年寄りだったり、仲間かもしれません。

自分の役割を知り、工夫と努力で成果を出し、感謝と称賛が得られたとき、学生は最高の笑顔に輝きます。

たとえ失敗と思っても、支え、力付けてくれる仲間がいれば、その失敗は次の成功につながるチャンスとなるでしょう。失敗を必要以上に怖がらないですむからです。

不満はアンケートで調べることができます。しかし、幸福は人それぞれです。

私は、ボランティア活動は、「幸福とは何か」を知る課外教育活動であると思っています。

今後とも、皆様のご理解とボランティアセンターの発展に、ご協力をよろしくお願いいたします。

ボランティア活動支援グループ
グループ長　堀　　律　子

「ボランティアってタダ働きですよね？」そんな質問を受けることがあります。

そのようなイメージを持つ方は多かれ少なかれおられるでしょう。なぜなら、ボランティア活動を行っても報酬は支給されないからです。この部分だけ切り取ると、確かに「タダ働き」のように思えます。しかしながら、継続的にボランティア活動に取り組んでいる学生に話を聞くと、「ボランティアは出会いの場だ」と言います。その真意は「自分自身と出会える場所」という意味だそうです。

みなさんは、今までの人生でいくつの発見をしてきたでしょう。食べ物の好き嫌い、好きなスポーツ、苦手な教科・・・。振り返れば発見の連続が連なったもの、それがあなたの後ろに「人生」として続いているはずです。

ボランティア活動は社会からの要請に応えよう、協力しようと思う人々同士の活動です。そこには様々なバックグラウンドを持った多種多様な人々が集まります。ボランティア活動では、「偶然」繋がったメンバー同士で社会問題に向き合います。

その活動にはあなたの知らなかった世界が広がっているかもしれません。もしくは、知っていた世界への価値観が、仲間の一言でガラッと変わってしまうこともあるでしょう。

ボランティア活動は、社会や他者、そして自分自身と出会える活動です。ボランティアに継続参加する人にとってこの刺激は何事にも代え難いものなのかもしれません。

また、それに加えて活動中に様々な人から届く「ありがとう」の言葉こそ、私は最高の報酬だと感じています。

「何が楽しくてボランティアをするんだろう？」そんな疑問を抱いている方。ボランティア活動に参加することで「あなた自身」が、その答えを教えてくれることでしょう。

まずは、はじめの一歩を本学ボランティアセンターに踏み出して下さい。その一歩を心待ちにしているボランティアセンター職員・学生スタッフが、次なる歩みをエスコートいたします。

ボランティア活動支援グループ
村　上　翔　也

2015年度活動報告（第10号）編集委員

ボランティア活動支援グループ	グループ長 堀　律　子
	村　上　翔　也
	渡　瀬　亜　紀
ボランティアセンター学生スタッフ	2015年度代表 三　上　直　之

2015年度 活動報告書(第10号)

発　行　日　平成28年11月30日

発　行　所　関西大学ボランティアセンター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL 06-6368-1121　FAX 06-6368-0703
http://www.kansai-u.sc.jp/volunteer

印　刷　所　株式会社　ディーワーク
〒532-0026 大阪市淀川区塚本3-14-6

関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL.06-6368-1121
FAX.06-6330-3703
http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer